

教 員 業 績 目 録

—2015年1月～12月—

看護病態学専門領域

〔原 著〕

< 2015年1月～3月 >

1. Okada S, Sudo A, Nishio J: Topical Application of Sesame Oil for the Prevention of Chemotherapy- Induced Oral Mucositis : Pilot Study in Seven Hematopoietic Cancer Patients. *International Journal of Nursing & Clinical Practices*, 123(2), 2015. Article ID 2 : IJNCP-123, <http://dx.doi.org/10.15344/2394-4978/2015/123>

〔学会発表抄録〕

< 2015年1月～3月 >

2. 印田宏子, 岡田忍, 西尾淳子, 小川俊子: 在宅における適切な尿道留置カテーテル管理のための教育について, *日本環境感染学会誌*, 30, Suppl. 287, 2015
3. Khudazi Aulawi, Shinobu Okada: The Reason Why Elderly People in Indonesia Die at Home. *文化看護学会第7回学術集会抄録集*, 20, 2015

<2015年4月～12月 >

4. 高宮奈津美, 岡田忍: 介護老人保健施設の職員における感染防止に対する認識と手指・環境の細菌学的検査の関係について, 第15回日本感染看護学会学術集会講演集, 26-27, 2015
5. 岡田しおみ, 岡田忍: チューイングガム咀嚼が女性高齢者の唾液分泌量と口腔内細菌に及ぼす影響について. *千葉看第21回学術集会集録*, 49, 2015
6. 岡田忍, 西尾淳子, 小川俊子: 化学療法にともなう口腔粘膜炎のメカニズムとその予防, *千葉看第21回学術集会講演集*, 55, 2015
7. Khudazi Aulawi, Junko Nishio, Shinobu Okada: Cross Resistance to Disinfectants and Antibiotics of *Staphylococcus aureus* and *Pseudomonas aeruginosa* Isolated from Nurses and Hospital Environments in Indonesia. *第35回日看科会学術集会講演集*, 235, 2015.

〔研究状況〕

本研究分野では、感染源や感染経路、宿主といった多角的な観点からの感染防止を軸に、長期療養型施設や在宅での感染防止を中心に研究を進めている。高齢者に多い誤嚥性肺炎を防止するためには口腔ケアが重要であることから、現在は高齢者に対する口腔ケアに特に力を入れている。また、国際プログラムに在学するインドネシアの留学生を介して、今後は国際的なインフェクションコントロールについての研究を進めていきたいと考えている。

岡田は、造血臓器の悪性腫瘍患者の化学療法の副作用である口腔粘膜炎の予防にゴマ油を応用した結果を論文発表する(1)とともに、この結果を臨床現場でも活用してもらうことを目的に第21回千葉看護学会学術集会で交流集会を主催した(6)。

岡田・西尾は平成24年度より助成を受けている基盤研究B「歯科専門職との連携による更年期女性と在宅高齢者の口腔ケアの質の向上に関する研究」(研究代表者 岡田忍)の中で、更年期女性と在宅高齢者における歯の健康状態、口腔ケアの現状等についての実態調査を実施し、その結果を学会で発表する予定である。

小川はゴマ油を用いた高齢者の口腔ケアプロトコルの作成と有効性についてまとめ、学会発表、論文投稿の準備を行っている。

この他、在宅における適切な尿道留置カテーテル管理のための教育(2)、インドネシアで在宅死が多い理由(3)、介護老人保健施設の職員の感染防止に対する認識と手指・環境の細菌学的検査の関係(4)、チューイングガム咀嚼が女性高齢者の唾液分泌に及ぼす影響(5)、インドネシアの看護師・院内環境から分離され

た*Staphylococcus aureus*, *Pseudomonas aeruginosa*における消毒薬と抗菌薬の交差耐性(7)について学会発表を行った。

小児看護学専門領域

〔原著〕

< 2015年1月～3月 >

1. 中村伸枝, 金丸友, 出野慶子, 谷洋江, 白畑範子, 内海加奈子, 仲井あや, 佐藤奈保, 兼松百合子: 1型糖尿病をもつ10代の小児/青年の糖尿病セルフケアの枠組みの構築-診断時からの体験の積み重ねに焦点をあてて-. 千葉看会誌, 20(2), 1-10, 2015.

< 2015年4月～12月 >

2. Naho Sato, Akiko Araki, Ryuko Ito & Kazuko Ishigaki: Exploring the Beliefs of Japanese Mothers Caring for a Child with Disabilities. *Journal of Family Nursing*, 21(2), 232-260, 2015.
3. 藤岡 寛, 涌水理恵, 佐藤奈保, 西垣佳織, 沼口知恵子, 岸野美由紀, 小沢 浩, 岩崎信明: 在宅重症心身障害児の家族エンパワメントにおける父親の役割-父親への面接調査-. 日本重症心身障害学会誌, 40(3), 356-366, 2015.
4. 涌水理恵, 藤岡 寛, 沼口知恵子, 西垣佳織, 佐藤奈保, 山口慶子: 重症心身障がい児と生活を共にする母親・父親・きょうだいの認識する自己役割, 他の家族員への役割期待, 家族としてのサポートニーズ. *インターナショナルNursing Care Research*, 14(4), 1-10, 2015.

〔学会発表抄録〕

< 2015年1月～3月 >

5. Naho Sato, Kaori Nishigaki, Rie Wakimizu, Hiroshi Fujioka, Chieko Numaguchi: The empowerment of mothers rearing children with severe motor and intellectual disabilities: Mothers' perceptions of service needed to maintain daily life and to empower the family. The 18th EAFONS (Taipei), Poster Abstract Book, 211-212, 2015.
6. Chieko Numaguchi, Kaori Nishigaki, Rie Wakimizu, Hiroshi Fujioka, Naho Sato, Keiko Yamaguchi: The thoughts and feelings of siblings living with children with severe motor and intellectual disabilities. The 18th EAFONS (Taipei), Poster Abstract Book, 201-202, 2015.
7. 佐藤奈保: 障がいをもつ子どもを育てる父親と母親-育児における両親の関係に着目した支援-: 加藤道代, 神谷哲司, 佐藤奈保, 黒澤 泰: 関連企画シンポジウム「夫婦がともに子どもを育てるということ-夫婦ペアレンティング研究をめぐって」, 日本発達心理学会第26回大会, 東京, 2015.

< 2015年4月～12月 >

8. 中村伸枝, 出野慶子, 金丸友, 谷洋江, 皆川真規, 数川逸郎: インスリンポンプ療法を経験した子どもの療養生活の課題. 第21回日本小児・思春期糖尿病研究会年次学術集会 プログラム・講演要旨, 11, 2015.
9. 西宮岳*, 中村伸枝, 佐藤奈保: NICUに入院し手術を受けた新生児をもつ父親の妻との連携. 日本小児看護学会第25回学術集会講演集, 93, 2015.
10. 尾上望*, 中村伸枝, 佐藤奈保: 乳幼児期の重症心身障がい児の親と看護師が短期入所の際に相互に伝えている構造. 日本小児看護学会第25回学術集会講演集, 105, 2015.
*) 2015年3月博士前期課程修了
11. 平塚克洋, 中村伸枝, 佐藤奈保: 自己肝にて生存する胆道閉鎖症をもつ小中学生の療養生活における母親の認識と関わり. 日本小児看護学会第25回学術集会講演集, 137, 2015.
12. 中村伸枝: 会長講演 子ども自身の成長していく力を支える看護-実践と研究からの学び-. 日本小児看護学会第25回学術集会集録, 49, 2015.

13. 中村伸枝, 金丸友, 仲井あや, 佐藤奈保, 出野慶子, 谷洋江, 内海加奈子: インスリンポンプ療法中の子どもが園・学校に説明している内容と受けている支援. 千葉看第21回学術集會集録, 47, 2015.
14. 佐藤絢佳, 中村伸枝, 仲井あや: 鼠径ヘルニア手術を受ける乳幼児の家族が外来通院中から手術後までに知りたいこと. 千葉看第21回学術集會集録, 45, 2015.
15. 山根侑子, 中村伸枝, 金丸友: 若年性特発性関節炎を有する思春期患者の自己の疾患に対する認識と日常生活におけるセルフケア. 千葉看第21回学術集會集録, 46, 2015.
16. 中村伸枝, 金丸友, 仲井あや, 谷洋江, 内海加奈子, 井出薫, 出野慶子, 高橋弥生: インスリンポンプ療法を行う子どもの療養生活と課題. 日本糖尿病教育・看護学会誌, 19特別号, 131, 2015.
17. 中村伸枝, 千脇美穂子, 谷脇直美, 添田百合子: シンポジウム2 ライフコースをとおして継続支援を進める; 小児期から青年期の療養生活の特徴と糖尿病セルフケア. 日本糖尿病教育・看護学会誌, 19特別号, 65, 2015.
18. 平塚克洋, 中村伸枝, 佐藤奈保, 齋藤武, 吉田英正: 自己肝にて生存する胆道閉鎖症をもつ思春期患児の療養行動の必要性の認識と母親の関わり. 第26回日本小児外科QOL研究会プログラム・講演集, 33, 2015.
19. Naho Sato, Kaori Nishigaki, Rie Wakimizu, Hiroshi Fujioka, Chieko Numaguchi, Keiko Yamaguchi: The Empowerment of Mothers rearing Children with Severe Motor and Intellectual Disabilities: Mothers' Perception of the Family Empowerment and Role Expectation to the Family Member. The 12th International Family Nursing Conference, Odense (Denmark) 2015.
20. Rie Wakimizu, Naho Sato, Hiroshi Fujioka, Kaori Nishigaki, Chieko Numaguchi, Keiko Yamaguchi: The Field Survey of the Families Home-Rearing Children with Severe Motor and Intellectual Disabilities in Japan: Focused on Family Member's Individual QOL. The 12th International Family Nursing Conference, Odense (Denmark) 2015.
21. Akiko Araki, Kazuko Ishigaki, Naho Sato, Mayuko Tsujimura, Ryuko Ito: The intervention trial in discharge planning using the family support guideline in Japan: focusing on the families' constraining beliefs. The 12th International Family Nursing Conference, Odense (Denmark) 2015.
22. 辻村真由子, 佐藤奈保, 荒木暁子, 伊藤隆子, 石垣和子: 家族の拘束的ビリーフに着目した家族支援ガイドラインの評価: 病棟看護師による試用を通して. 第35回日看科会学術集會講演集, 560, 2015.

【単行書】

< 2015年4月～12月 >

23. 荒木暁子, 佐藤奈保: 第Ⅱ部 PSI育児ストレスインデックスショートフォーム 第2章 様々な対象のPSI-SFスコアとプロフィール, 2. 障害児. PSIショートフォーム手引き作成委員会 編: PSI育児ストレスインデックス手引 2訂版, 96-99, 一般社団法人雇用問題研究会, 2015.
24. 佐藤奈保: 第Ⅱ部 PSI育児ストレスインデックスショートフォーム 第2章 様々な対象のPSI-SFスコアとプロフィール, 8. 父親のデータ. PSIショートフォーム手引き作成委員会 編: PSI育児ストレスインデックス手引 2訂版, 113-114, 一般社団法人雇用問題研究会, 2015.
25. 佐藤奈保: 第Ⅱ部 PSI育児ストレスインデックスショートフォーム 第3章 日本版PSI-SFを用いた育児ストレスを軽減する援助(プログラム)スコアとプロフィール, 9. PSI-SFと家族. PSIショートフォーム手引き作成委員会 編: PSI育児ストレスインデックス手引 2訂版, 133-135, 一般社団法人雇用問題研究会, 2015.

【総説・短報・実践報告・資料・その他】

< 2015年1月～3月 >

26. 中村伸枝, 金丸友, 仲井あや, 高橋弥生, 兼松百合子: 小児糖尿病キャンプにおける看護師による授業-30年間の活動を通して-. 千大看紀要, 37, 73-77, 2015.

< 2015年4月～12月 >

27. 中村伸枝: 子ども自身の成長していく力を支える看護-実践と研究からの学び-. 日本小児看護学会

誌, 24(3), 45-50, 2015.

28. 中村伸枝: 1型糖尿病児及びその家族を対象とした療養支援. メディカルスタッフWebセミナー 特別講演, KIT STUDIO東京, 2015.10.

【研究状況】

本教育研究分野では、疾患や障害をもつ子どもと家族について看護実践を重ねながら、大学院生や卒業生らと共に研究を継続し発信している(9,10,11,14,15,18).

中村は、H25~27年度科研費(基盤研究(C))を得て「インスリンポンプ療法を行う1型糖尿病をもつ子どもの療養生活支援・評価指標の開発」に分野全体で取り組み研究成果を発信(1,8,13,16,26), 小児糖尿病の看護について依頼講演を行うと共に(17,28), 日本小児看護学会第25回学術集会で会長を務めた(12,27). 佐藤は、平成25~27年度科研費(挑戦的萌芽研究)を得て「障がいをもつ幼児の養育者のコ・ペアレンティングに着目した育児支援に関する研究」に取り組むとともに(7), 平成25~26年度科研費(挑戦的萌芽研究)「在宅重症児の家族エンパワメントに焦点を当てた看護ケア実践モデル開発」(代表: 涌水理恵)の共同研究者として成果を発表した(3,4,5,6,19,20). また、継続して取り組んでいる家族のビリーフに関する研究(2,21,22), 育児ストレスに関する研究(23,24,25)について、それぞれ成果発表、手引の執筆に携わった. その他、平成26~28年度科研費(基盤研究(C))「陸前高田市における乳幼児を抱える家族の災害エスノグラフィー」(研究代表者: 駒形朋子), 平成26~27年度科研費(挑戦的萌芽研究)「がん体験者と子どもを含む家族のためのサポートプログラムパッケージの開発」(研究代表者: 増島麻里子)の研究分担者としても活動している.

仲井は、平成26~28年度科研費(若手研究(B))「早産児の親とともに行う生後早期の発達支援の展開と評価・支援モデルの考案」を継続し、データ収集と分析を進めている.

金丸は、平成26~27年度科研費(研究活動スタート支援)を受けて、「精神疾患をもつ母親が体調管理をしながら行う育児を促進する看護援助指針の開発」を開始し、データ収集・分析を行い、公表にむけた準備を進めている.

成人看護学専門領域

【原著】

< 2015年1月~3月 >

1. 増島麻里子, 佐藤まゆみ, 岡本明美, 泰圓澄洋子, 吉田千文, 阿部恭子, 長坂育代, 土屋雅子, 渡邊美和, 楠潤子: 乳がん術後患者のためのサポートグループプログラム「ほっとカフェ」の効果-プログラム構成に着眼した参加者の体験分析-. 千葉看会誌, 20(2), 41-49, 2015.
2. 渡邊美和, 佐藤まゆみ, 眞嶋朋子: 終末期がん患者と配偶者の相互作用に関する研究. 千葉看会誌, 20(2), 31-39, 2015.
3. 菅野久美*, 秋元典子, 眞嶋朋子: 外来化学療法を受けるがん患者の心身緊張状態と緊張緩和のための対処過程. 日本がん看護学会誌, 29(2), 14-23, 2015.
*2014年9月博士後期課程修了

【学会発表抄録】

< 2015年1月~3月 >

4. 小林成光*, 長坂育代, 増島麻里子: がん罹患により離職した就労世代のがん患者の離職後の体験. 第29回日本がん看護学会学術集会講演集, 231, 2015.
*2014年3月博士前期課程修了
5. 垣本看子*, 和泉秀子, 小野智子, 眞嶋朋子: 学童期の子どもを持つがん患者が自分の病気について子どもに伝えることに関する体験. 第29回日本がん看護学会学術集会講演集, 139, 2015.
*2014年3月博士前期課程修了
6. 山田理沙*, 増島麻里子: 倦怠感のある終末期がん患者の療養生活を支える家族の体験. 第29回日本

がん看護学会学術集会講演集, 140, 2015.

*2014年9月博士前期課程修了

7. 竹中健*, 眞嶋朋子: 再発後に外来化学療法を受けながら一人暮らしをするがん患者の療養体験. 第29回日本がん看護学会学術集会講演集, 142, 2015.
*2014年3月博士前期課程修了
8. 大塚知子*, 大野稔子*, 眞嶋朋子: 子宮頸部前がん病変と診断された女性の受診経過における子宮頸がん罹患に対する思い. 第29回日本がん看護学会学術集会講演集, 142, 2015.
*2014年3月博士前期課程修了
9. 菅野久美*, 秋元典子, 眞嶋朋子: 外来化学療法を受けるがん患者の心身緊張状態と緊張緩和のための対処過程. 第29回日本がん看護学会学術集会講演集, 157, 2015.
*2014年9月博士後期課程修了
10. 岡本明美, 谷宏子, 眞嶋朋子: 前立腺全摘術を受けた前立腺がん患者とパートナーの夫婦関係満足尺度・性機能・サポートニーズに関する実態調査. 第29回日本がん看護学会学術集会講演集, 199, 2015.
11. 藤原梨華*, 長坂育代, 眞嶋朋子: 初期治療が奏功した進行肺がん患者が抱く生きることへの思い. 第29回日本がん看護学会学術集会講演集, 221, 2015.
*2013年9月博士前期課程修了
12. 荒堀有子*, 阿部恭子, 増島麻里子: 内分泌療法を開始した閉経前乳がん患者の治療経過に伴う対処. 第29回日本がん看護学会学術集会講演集, 223, 2015.
*2014年3月博士前期課程修了
13. 佐藤仁美, 楠潤子, 眞嶋朋子: 症状と共に生きる原発性悪性脳腫瘍患者に関わる家族の取り組み. 第29回日本がん看護学会学術集会講演集, 227, 2015.
14. 増島麻里子, 眞嶋朋子, 長坂育代, 神田清子, 二渡玉江, 水野道代, 佐藤正美, 笹原朋代, 古地順子, 原田真里子: 専門看護師育成におけるICT教育がんプロ全国e-learningクラウドの活用. 第29回日本がん看護学会学術集会講演集, 25, 2015.
15. 佐藤まゆみ, 片岡純, 塩原由美子, 大内美穂子, 阿部恭子, 森本悦子, 高山京子, 佐藤禮子: 外来通院がん患者の主体性を発揮した生活を支援するために外来看護師が重要と考える看護実践. 第29回日本がん看護学会学術集会講演集, 155, 2015.
16. 塩原由美子, 佐藤まゆみ, 阿部恭子: 若年女性生殖器がん患者とパートナーの手術前の困難と対処および望む支援. 第29回日本がん看護学会学術集会講演集, 193, 2015.
17. 増島麻里子: 第39回日本リンパ学会総会 シンポジウム「浮腫の鑑別と治療-リンパ浮腫予防期の患者へのかかわり-」, リンパ学, 38 (suppl), p74, suppl,2015.

< 2015年4月～12月 >

18. Tomoko Majima, Sumie Ikezaki, Ikuko Sakai, Ikuyo Nagasaka, Shuichi Yamamoto, Mariko Masujima, Kana Kurokohchi: Association between communication, competency for interprofessional collaborative practice, and team performance in Japan. AMEE2015 An International Association for Medical Education, 504, 2015.
19. Tomoko Otsuka*, Toshiko Ohno, Tomoko Majima: Experiences of Relationship with Others from Women Diagnosed with Cervical Precancerous Lesion. 18th East Asian Forum of Nursing Scholars, Taipei, 2015
*2014年3月博士前期課程修了
20. Tomoko Otsuka*, Toshiko Ohno, Tomoko Majima: Consultaion Experiences of Women Diagnosed with Cervical Precancerous Lesion. 2nd Asian Oncology Nursing Society, Seoul, 2015
*2014年3月博士前期課程修了
21. 大塚真理子, 池崎澄江, 山田響子, 酒井郁子, 長坂育代, 黒河内仙奈, 山本武志, 渡邊美和, 増島麻里子, 大塚知子, 眞嶋朋子: 大学病院の医師と看護師以外の多職種における専門職連携実践力の特徴 - CICS29の比較から. 第8回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会, 33, 2015.

22. 渡邊美和, 増島麻里子, 眞嶋朋子, 池崎澄江, 黒河内仙奈, 大塚真理子, 山田響子, 長坂育代, 大塚知子, 酒井郁子: 大学病院の看護師長が認識している多職種連携実践上の課題. 千葉看第21回学術集会集録, 37, 2015.
23. 酒井郁子, 池崎澄江, 長坂育代, 黒河内仙奈, 大塚真理子, 渡邊美和, 増島麻里子, 大塚知子, 眞嶋朋子: 大学病院における専門職連携実践に関する研究 第1報 看護師・医師の専門職連携実践自己評価の部署間比較. 第35回日看科会学術集会講演集, 707, 2015.
24. 長坂育代, 黒河内仙奈, 池崎澄江, 増島麻里子, 渡邊美和, 酒井郁子, 大塚真理子, 大塚知子, 眞嶋朋子: 大学病院における専門職連携実践に関する研究 第2報 看護師の専門職連携実践の評価と職務満足度との関連. 第35回日看科会学術集会講演集, 708, 2015.
25. 池崎澄江, 増島麻里子, 長江弘子, 岩城典子, 谷本真理子, 櫻井智穂子, 和泉成子, 斉藤俊弘, 田村尚亮: 慢性疾患を持つ高齢者におけるエンドオブライフケアと事前指示書に関する認識. 第20回日本老年看護学会学術集会抄録集, 204, 2015.
26. 荒堀有子, 増島麻里子: 内分泌療法中の閉経前乳がん患者における更年期症状と対処. 第23回日本乳癌学会学術総会プログラム抄録集, 402, 2015.
27. 金澤麻衣子, 増島麻里子, 阿部恭子, 山内英子: 一次二期乳房再建術を受けた患者の術式選択の背景. 第23回日本乳癌学会学術総会プログラム抄録集, 478, 2015.
28. 増島麻里子: シンポジウム「リンパ浮腫研究と実践の最前線」リンパ浮腫予防期における実践と研究. 国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会 第5回学術集会プログラム・抄録集, 56-57, 2015.
29. 阿部恭子, 金澤麻衣子, 荒堀有子, 佐藤まゆみ: 乳がん看護相談に携わる乳がん看護認定看護師に対する患者の期待. 日本乳がん看護研究会誌, 11巻, 19, 2015.
30. 島田菜穂子, 福田護, 阿部恭子, 小泉美都枝, 鈴木久美, 高木富美子, 土井卓子: 受診率向上の工夫 ピンクリボンアドバイザー 乳がんにやさしい社会に向けて 今後の展望. 日本乳癌検診学会誌, 24(3), 481, 2015.

【報告書】

なし

【単行書】

< 2015年1月～3月 >

31. 増島麻里子 (作成委員: 査読), 日本がんリハビリテーション研究会編: がんのリハビリテーションベストプラクティス. 金原出版, 10 - 253, 2015.
32. 阿部恭子: 第IV章慢性疾患の主な治療法と治療を受ける患者の看護 9. 内分泌療法を受ける患者の援助. 鈴木久美他編集, 看護学テキスト NiCE 成人看護学 慢性期看護 改定第2版, 182-188, 南江堂, 2015.
33. 村岡香織, 阿部恭子: 第4章. 乳がん・婦人科がん. 日本がんリハビリテーション研究会編, がんのリハビリテーションベストプラクティス. 91-116, 金原出版, 2015.

< 2015年4月～12月 >

34. 増島麻里子: Vリンパ浮腫への対応 Q29リンパ浮腫の発症予防と早期発見のための評価のポイントを教えてください, Q30リンパ浮腫予防期における各職種の立ち位置や果たすべき役割をふまえ, 有用なチームアプローチとなる指導の実際をおしえてください, 辻哲也編著, がんのリハビリテーションQ&A, 中外医学社, 94-96, 97-99, 2015.
35. 増島麻里子, 井上泉子*: 4ターミナル期における食に関する苦痛と援助 3食に関する苦痛に伴う日常生活への影響, 4食に関する苦痛緩和の目標設定とケア, 5ターミナル期における排泄に関する苦痛と援助 4排泄に関する苦痛に伴う日常生活への影響, 5排泄に関する苦痛緩和の目標設定とケア, 佐藤禮子監修, 浅野美知恵編集: 絵で見るターミナルケア改訂版, 274-275, 275-281, 288-289, 289-297, 学研, 2015.

*2011年3月博士前期課程修了

〔総説・短報・実践報告・資料・その他〕

< 2015年1月～3月 >

36. 眞嶋朋子, 佐藤禮子, 泰圓澄洋子, 楠潤子, 増島麻里子, 岡本明美, 渡邊美和, 佐藤まゆみ, 浅野美知恵, 正木治恵: 看護系大学院修了者支援プログラム参加者のコンサルテーションに関する認識の変化, 千葉大学大学院看護学研究科紀要, 37, 57-64, 2015.

< 2015年4月～12月 >

37. 増島麻里子: 【生活文化に即したエンド・オブ・ライフケア】の研究成果から 慢性疾患高齢者と家族の望む生き方を引き出すケアモデルの提案, 第4回市民協働シンポジウム報告書-自分のエンド・オブ・ライフについて語ろう-, 38-46, 2015.
38. 宮崎美砂子, 高取充祥*, 眞嶋朋子: 平成26年度千葉大学国際プロジェクトソーラー住宅建築国際大会「Solar Decathlon Europe 2014」における看護学研究科大学院生の役割とその意義, 千葉大学大学院看護学研究科紀要37,65-71,2015.
*2016年3月博士前期課程修了予定
39. 阿部恭子, 井関千裕: がんサバイバーへの看護(Vol. 8) 集学的治療とサバイバー支援 内分泌療法, ナース専科, 35 (11), 78-82, 2015.
40. 阿部恭子: 乳がん診療におけるコーディネーターの重要性, CLINICIAN, 643, 73-77, 2015.

〔研究状況〕

成人看護学教育研究分野では, がん看護, 終末期看護, 専門看護師教育, 専門職連携に関する研究を行っている。また, がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン「国際協力型がん臨床指導者養成拠点」に取り組んでいる。

がん看護については, 増島らが, 乳がん術後患者のためのサポートグループプログラムの効果について, 眞嶋らが外来化学療法を受けるがん患者の対処過程についてそれぞれ研究報告を行った(1,3)。その他, がん患者の離職後の体験(4), がん患者が子どもに自分の病気を伝える体験(5), 外来化学療法を受けるがん患者の療養体験や対処過程(7,9), 子宮頸がん前がん病変患者の思いや経験(8,19,20), 前立腺がん患者とパートナーの夫婦関係満足尺度・性機能・サポートニーズに関する実態調査(10), 進行肺がん患者の生きることへの思い(11), 乳がん患者の対処(12,26), 原発性悪性脳腫瘍患者の家族の取り組み(13), 外来通院がん患者の支援をするための看護実践(15), 若年女性生殖器がん患者とパートナーの困難・対処・支援について(16), 一次二期乳房再建術を受けた患者の術式選択の背景(27), 乳がん看護(29,30), に関してそれぞれ発表した。増島は, リンパ浮腫について発表・執筆し(17,28,34), がんのリハビリテーションについて執筆した(31)。文部科学省科学研究費補助金を受けて, 増島らは, 「がん体験者と子どもを含む家族のためのサポートプログラムパッケージの開発」(挑戦的萌芽研究), 長坂らは, 「オンコロジーナースの実践知の伝承を通して新たな実践知を生み出す教育プログラム」(基盤研究(C))に継続して取り組んでいる。

エンドオブライフケアについては, 渡邊らが終末期がん患者と配偶者の相互作用について研究報告を行った(2)。その他, 倦怠感のある終末期がん患者の療養生活を支える家族の体験について(6), 慢性疾患を持つ高齢者におけるエンドオブライフケア(25,37)に関する研究成果をそれぞれ発表した。増島らは, ターミナルケアに関する執筆を行った(35)。増島らは, 千葉大学リーディング研究育成プログラム推進候補課題「超高齢社会におけるエンド・オブ・ライフケア学の確立と人生を豊かに生ききるアドバンスケアプランニングの社会実装」に取り組んだ。文部科学省科学研究費補助金を受けて, 渡邊は「終末期がん患者と配偶者の相互作用を支える看護モデルの精練」(若手研究(B)), 増島は「慢性疾患高齢患者の終生期の充実に向けた市民・医療をつなぐ情報共有システムの構築」(基盤研究(B))に継続して取り組んでいる。

専門看護師教育については, 眞嶋らは, 看護系大学院修了者支援プログラム参加者のコンサルテーションに関する認識の変化について研究成果を報告した(36)。また, 増島らは, がん看護専門看護師育成におけるICT教育e-learningクラウドの活用(14)についての発表をした。

専門職連携については, 眞嶋らが, 千葉大学の治療学創生研究の助成を受け, 高度急性期病院における

医療者の専門職連携コンピテンシーが医療の質に与える影響に関する研究を継続し、成果発表を行った(18,21,22,23,24).

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン「国際協力型がん臨床指導者養成拠点」においては、次年度が事業の最終年度となることから、これまでの活動・成果を可視化することを目的に、Web公開に向けた準備を行っている。また、筑波大学、群馬大学と共同で、「緩和ケアにおけるコアコンピテンシーと看護教育に関する国際共同研究」に取り組んでいる。

その他、眞嶋らは、千葉大学国際プロジェクトソーラー住宅建築国際大会「Solar Decathlon Europe 2014」における看護学研究科大学院生の役割とその意義について報告した(38)。

老人看護学専門領域

〔原著〕

< 2015年1月～3月 >

1. 谷本真理子, 高橋良幸, 服部智子, 田所良之, 坂本明子, 須藤麻衣, 正木治恵: 一般病院における非がん疾患患者に対する熟練看護師のエンド・オブ・ライフケア実践, *Palliative Care Research*, 10(2), 108-115, 2015.

〔学会発表抄録〕

< 2015年1月～3月 >

2. Nobuko KAWAI, Harue MASAKI, Keiko MATSUMOTO, Yasue HAYASHI, Sayuri SAKAI, Kazuko ENDO, Megumi TESHIMA, Hiroko NAGAE: Exploring elements of end-of-life care for the elderly with the aim of developing quality indicators: English literature review, 18th East Asian Forum of Nursing Scholars(EAFONS), 2015年2月5日～6日, Taipei,Taiwan.

< 2015年4月～12月 >

3. Harue MASAKI, Nobuko KAWAI, Keiko MATSUMOTO, Yasue HAYASHI, Sayuri SAKAI, Kazuko ENDO, Megumi TESHIMA, Hiroko NAGAE: Development of Quality Indicators for End-of-Life Care for the elderly in Japan: By Delphi technique. *International Association of Gerontological and Geriatrics*, 2015年10月19日～22日, 2015,Chiangmai,Thailand
4. N. Seto, A. Hatanaka, M., Okura, Y. Yamaji, M. Mizuno, K. Mori, Y. Shimizu, H. Ishii, H. Masaki: Evaluation of the brush-up course in an education program for training competency in diabetes nursing practice. *World Diabetes Congress2015*, 2015年11月30日～12月4日, Vancouver.
5. 正木治恵: 会長講演 超高齢社会における看護の可能性, 第20回日本老年看護学会学術集会講演集, 54, 2015.
6. 正木治恵, 河井伸子, 松本啓子, 桑田美代子, 吉岡佐知子, 西山みどり, 内野良子, 遠藤和子, 坂井さゆり, 林弥江, 長江弘子, 手島恵: 高齢者の豊かな最晩年を創出する終末期ケア質指標の開発, 第20回日本老年看護学会学術集会講演集, 211, 2015.
7. 正木治恵, 荒木暁子, 飯田直, 岩崎友理子, 上田広美, 小池潤: 転倒・転落事故予防のための睡眠及び離床動作のセンシング機器活用の検討 第一報 課題抽出と効果分析, 第35回日看科会学術集会講演集, 626, 2015.
8. 石橋みゆき, 雨宮有子, 伊藤隆子, 樋口キエ子: 退院支援システム構築のための看護師の方略, 第19回日本看護管理学会学術集会抄録集, 232, 2015.
9. 石橋みゆき, 雨宮有子, 伊藤隆子, 樋口キエ子, 丸谷美紀: 退院支援に係る看護技術の再構成—個別事例への支援技術とシステム構築方略の統合—, 千葉看護学会第21回学術集会講演集, 33, 2015
10. 曾根さやか, 高橋良幸, 谷本真理子, 正木治恵: 急性期治療を担う一般病院で身体拘束状況下にある高齢患者の『持てる力』, 日本老年看護学会第20回学術集会抄録集, P268, 2015.
11. 渡邊裕子, 石橋みゆき, 正木治恵: 急性期病棟にてリハビリテーションを受けている高齢患者に関わ

る病棟看護師がリハ専門職と共有した情報を日常のケアにつなげる意図,千葉看護学会第21回学術集会講演集, 36, 2015

12. 廣瀬舞, 田所良之* : 中年期女性MG患者が確定診断前に受けていたストレスとコーピングの内容及びそれらに対する現在の意味づけ. 日本難病看護学会誌, 20(1), p30, 2015.
13. 田中貴大, 田所良之* : パーキンソン病患者が生活のバランスを取ろうとする様. 日本難病看護学会誌, 20(1), p74, 2015.
14. 松橋宏樹, 田所良之*, 正木治恵 : 回復期リハ病棟の看護師による脳卒中患者への退院前訪問の退院支援における活用. 日本リハビリテーション看護学会学術大会第27回学術大会, p98, 2015.
(* : 2015年3月まで本研究科教員)

【報告書】

< 2015年1月～3月 >

15. 正木治恵 : 高齢者の豊かな最晩年を創出する終末期ケア質指標の開発 (研究課題番24390503), 平成24～26年度科学研究費 (基盤研究 (B)) 研究成果報告書, 2015.
16. 黒岩眞吾, 藤田伸輔, 正木治恵, 大武美保子, 三宅徳久, 北村孝司, 監修 : 幸せで豊かな多世代共生社会を実現するつながり支援環境の構築—イノベーション創出を目指すHappy-ICTストリーム—, 平成26年度文部科学省補助金大学等シーズ・ニーズ創出強化支援事業, 1-175, 2015.

< 2015年4月～12月 >

17. 田所良之* : 日本における患者—看護師間の対人援助関係の構築・促進・維持に関する看護技術の特徴. 平成24～26年度科学研究費補助金 (基盤研究(C)) 研究成果報告書, 2015.
(* : 2015年3月まで本研究科教員)

【単行書】

< 2015年1月～3月 >

なし

< 2015年4月～12月 >

なし

【総説・短報・実践報告・資料・その他】

< 2015年1月～3月 >

18. 眞嶋朋子, 佐藤禮子, 泰圓澄洋子, 楠潤子, 増島麻里子, 岡本明美, 渡邊美和, 佐藤まゆみ, 浅野美智恵, 正木治恵 : 看護系大学院修了者支援プログラム参加者のコンサルテーションに関する認識の変化, 千大看紀要, 37, 57-64, 2015.
19. 石橋みゆき : 日本の看護系大学院における教育者・研究者の養成—看護学教育者, 研究者養成につながる行政官の活動例—, 看護研究48 (1), 52-63, 2015

< 2015年4月～12月 >

20. 古川由紀, 谷本真理子, 正木治恵 : 壮年期に脳卒中を発症した生活者の健康に関する価値観・解釈的現象学を用いて記述する試み—, 文化看護学会誌, 7(1) : 13-21, 2015.
21. 劉彦, 正木治恵 : 中国における糖尿病中医看護の現状と課題—文献検討を通して—, 文化看護学会誌, 7(1) : 22-29, 2015.
22. Y. Miyawaki, Y. Shimizu, K. Uchiumi, K. Asou, N. Murakado, K. Kuroda, H. Masaki, N. Seto, H. Ishii : Shortened Version of an Instrument for Diabetes Self-Care Agency, Journal of Nursing Measurement, 23(2) : 326-335, 2015.

高齢社会実践看護学教育研究分野老人看護学専門領域では, 高齢社会において必要となる看護実践を科

学的に探求することを目的に、慢性疾患を抱える人々や高齢者が治療を受ける病院をはじめ、生活の場であるケア施設や在宅等も研究フィールドとして、多様な看護実践の場における研究を行っている。

平成27年は、慢性疾患を抱える人々や高齢者の終末期ケア（エンド・オブ・ライフケア）に関する研究成果を発表した（1.2.3.6）。また、6月に開催された第20回日本老年看護学会学術集会では、正木が学術集會会長を務め、「超高齢社会における看護の可能性」と題し、蓄積された高齢者ケアの研究成果を踏まえ會長講演を行った（5）。

また、高度実践看護師への教育支援に関する研究（4.18）や、高齢社会において重要となる地域包括ケアの構築を念頭に、退院支援に関する研究についても研究の取組を発表した（8.9）。

そのほか、糖尿病、脳卒中、難病を抱える人々のケアについて大学院生や修了生の研究の発表を支援した（10.11.12.13.14.20.21）。

平成27年に実施した研究プロジェクトとしては、平成27年1月～3月は、正木が「高齢者の豊かな最晩年を創出する終末期ケア質指標の開発」（文部科学省研究補助金（基盤B）、田所が「日本における患者－看護師間の対人援助関係の構築・促進・維持に関する看護技術の特徴」（文部科学省研究補助金（基盤C）、高橋が「終末期慢性呼吸器疾患患者への患者アウトカム評価を含む相互作用実践モデルの作成」科学研究費助成事業学術研究助成基金助成金（基盤研究C）を受け、研究を進めた。

加えて、平成27年4月より、正木は「高齢者ケアの継続・連携に関する質指標の開発とシステム構築」（科学研究費補助金基盤研究（A）平成27年度～30年度）、石橋は「療養の場の移行支援構築に向けた退院支援に係る看護技術の体系化」（科学研究費助成事業学術研究助成基金助成金基盤研究（C）平成27年度～29年度）を新たに獲得し、研究に着手し、順調に研究を進めている。また、石橋は、千葉大学学内研究推進事業千葉大学リーディング研究育成プログラム推進候補課題として選定された「超高齢社会におけるエンド・オブ・ライフケア学の確立と人生を豊かに生ききるアドバンスケアプランニングの社会実装（推進責任者：増島麻里子）」における中核推進者として研究の推進に取り組んでいる。

生体看護学専門領域

〔原著〕

< 2015年1～3月 >

1. Takehara K, Amemiya A, Mugita Y, Tsunemi Y, Seko Y, Ohashi Y, Ueki K, Kadowaki T, Oe M, Nagase T, Ikeda M, Sanada H: Association between Washing Residue on the Feet and Tinea Pedis in Diabetic Patients. *Nursing Research and Practice*. 2015. (doi: org/10.1155/2015/872678)
2. 山田案美加, 大江真琴, 大橋優美子, 雨宮歩, 高野学, 野口博史, 玉井奈緒, 西澤知江, 植木浩二郎, 門脇孝, 森武俊, 真田弘美: 糖尿病患者の糖尿病用治療靴作製と着用継続に関するプロセス. *看護理工学会誌*, 2(1), 15-24, 2015.

< 2015年4～12月 >

3. 高橋美奈子, 野口博史, 大江真琴, 倉持江美子, 大橋優美子, 雨宮歩, 高野学, 村山陵子, 森武俊, 植木浩二郎, 門脇孝, 真田弘美, 小見山智恵子: 糖尿病患者の足部筋力と足底圧・せん断力・腰部足部角速度の関係: 4症例における足底圧・せん断力・足部腰部角速度同時測定による検討. *看護理工学会誌*, 2(3), 157-163, 2015.

〔学会発表抄録〕

< 2015年1～3月 >

4. Sugata Y, Miyaso H, Odaka Y, Komiyama M, Sakamoto N, Mori C, Matsuno Y: Comparison of vapor levels of formaldehyde from embalmed human cadavers between males and females. The 120th Annual Meeting of The Japanese Association of Anatomists and the 92nd Annual Meeting of The Physiological Society of Japan. *The Journal of Physiological Sciences*, 65 (Supplement 1),

S295, 2015.

5. Matsuno Y, Miyaso H, Sugata Y, Ohta M, Fujita M, Tanaka Y, Mori C, Komiyama M : Trial of anatomical education by anatomical tour using a rotation method for pharmaceutical students. The 120th Annual Meeting of The Japanese Association of Anatomists and the 92nd Annual Meeting of The Physiological Society of Japan. The Journal of Physiological Sciences, 65 (Supplement 1), S305, 2015.
6. Amemiya A, Noguchi H, Oe M, Sanada H, Mori T : Reliability and validity of the measurement system for in-shoe pressure and shear stress of specific regions such as callus area attaching novel thin sensors. (Diabetic Foot Global Conference 2015, Los Angeles, USA)
7. Oe M, Takehara K, Noguchi H, Ohashi Y, Amemiya A, Ohura N, Sanada H : Thermographic findings might be useful for predicting ulceration in a diabetic patient with foot callus, a case report. (Diabetic Foot Global Conference 2015, Los Angeles, USA)

< 2015年4～12月 >

8. Goto T, Tamai N, Nakagami G, Naito A, Hirokawa M, Amemiya A, Kitamura A, Koyano Y, Sanada H : Nerve growth factor and S100A8/A9 in exudates from venous leg ulcers are associated with wound pain status. (The 25th conference of EWMA, London, UK)
9. 田中裕二 : 聴覚刺激が覚醒レベルおよび生理的反応に及ぼす影響について. 日本看護技術学会第14回学術集会講演抄録集, 80, 2015.
10. 増田千恵, 根本愛子, 廣瀬誠子, 戸倉直美, 奥山紫, 南美歩, 神尚子, 田中裕二 : 新人看護職員研修における研修内容に関する実態調査と改善. 第11回歯科・口腔外科看護研究会抄録集26, 2015.
11. 雨宮歩, 大江真琴, 野口博史, 竹原君江, 大橋優美子, 鈴木亮, 山内敏正, 門脇孝, 真田弘美, 森武俊 : 糖尿病神経障害患者における足底胼胝部位と対応する非胼胝部位の靴内圧力・せん断応力の比較. 第3回看護理工学会学術集会プログラム・概要集, 33, 2015.
12. 上畑陽子, 雨宮歩, 吉田美香子, 藪中幸一, 峰松健夫, 真田弘美 : 側頭部の皮膚硬度と栄養状態の関連検討. 第3回看護理工学会学術集会プログラム・概要集, 37, 2015.
13. 川村留美, 大江真琴, 竹原君江, 雨宮歩, 大橋優美子, 野口博史, 植木浩二郎, 門脇孝, 小見山智恵子, 真田弘美 : 糖尿病患者における靴のサイズと足部皮膚音のパターンの検討. 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌第24回学術集会抄録集. 19(2), 255, 2015.

【単行書】

< 2015年1～3月 >

14. 田中裕二 : Ⅷ. 実験実習の方法 2. 示教実験 2-1. バイタルサイン領域 : 脳機能. 深井喜代子, 前田ひとみ (編集), 基礎看護学テキスト (改訂第2版) - EBN志向の看護実践. 南江堂 (東京), pp.447-449, 2015.
15. 田中裕二 : 第1部 急性期看護概論, 2. 急性の状態にある患者の身体的・心理的反応. 林直子, 佐藤まゆみ (編集), 看護学テキストNiCE 成人看護学 急性期看護 I - 概論・周手術期看護 (改訂第2版). 南江堂 (東京), pp.7-19, 2015.
16. 田中裕二 : 第II章 救急医療における看護, 2. 救急患者の特徴. 佐藤まゆみ, 林直子 (編集), 看護学テキストNiCE 成人看護学 急性期看護 II - 救急看護 (改訂第2版). 南江堂 (東京), pp.30-31, 2015.

【総説・短報・実践報告・資料・その他】

< 2014年4～12月 >

17. Nakamoto M, Miyaso H, Komiyama M, Matsuno Y, Mori C : Changes in expression levels of oxidative stress-related genes in mouse epididymides by neonatal exposure to low-dose decabromodiphenyl ether. Reproductive Medicine and Biology, 13 (3), 127-134, 2014.

< 2015年4～12月 >

18. Amemiya A, Noguchi H, Oe M, Ohashi Y, Takehara K, Ueki K, Kadowaki T, Sanada H, Mori T : Comparison of Gait Features Between Feet With Callus or Corns and Normal Feet Using Motion Sensors in People With Diabetes and People Without Diabetes. Journal of Diabetes Science and Technology. 2015. pii : 1932296815616135. [Epub ahead of print]
19. Oe M, Ohashi Y, Amemiya A, Yamada A, Iizuka Y, Kadowaki T, Sanada H : Foot complications in diabetes mellitus : comparison of Chinese and Japanese patients. Japanese Journal of Foot Care, 13(1), 19-23, 2015.
20. 深井喜代子, 角濱春美, 田中裕二, 高島尚美, 前田ひとみ, 早瀬良 : <交流セッションⅦ>論文投稿のA to Z (その4) - 日本看護技術学会誌の役割と課題. 日本看護技術学会第14回学術集会講演抄録集, 51, 2015.

【研究状況】

生体看護学専門領域では、看護対象である人体について解剖学的視点ならびに生理学的視点からの研究を行っている。また、2016年1月に藤田水穂助教の後任として雨宮歩助教が加わった。

小宮山は、平成26年度より文部科学省科学研究費補助金（基盤研究（C））の助成を受け、「採血および注射に利用しうる静脈と近傍の神経および動脈に関する解剖学的研究」に取り組んでいる。また、メディカルの解剖見学をより良いものとするためのアンケート調査を実施しており、その結果の一部を第120回日本解剖学会総会全国学術集会・第92回日本生理学会大会合同大会において公表した（5）。

田中は、看護技術の科学的な検証についての研究を継続している。今年度は、聴覚刺激が覚醒レベルおよび生理的反応に及ぼす影響について（9）の研究成果を学術集会で発表した。平成25年度より文部科学省科学研究費補助金（基盤研究（C））の助成を受け、研究課題「高次脳機能障害患者に対する看護援助技術の神経生理学的研究」を継続している。また、看護学テキストの改訂版を発行した（14-16）。

雨宮は、平成26年度より文部科学省科学研究費補助金特別研究員奨励費の助成を受け、「糖尿病性足潰瘍予防のための歩容を考慮した新たなフットウェアの開発と臨床応用」に取り組んだ。成果の一部を短報としてJournal of Diabetes Science and Technologyで公表（18）、臨床調査の結果を国内外で発表し（6, 11）、博士論文として成果をまとめ提出した。

リプロダクティブヘルス看護学専門領域

【原著】

< 2015年1月～3月 >

1. 小坂麻衣, 森恵美, 坂上明子 : 初産婦である娘をもつ実母の産後1ヵ月間における祖母役割行動の調整過程. 日本母性看護学会誌, 15 (1), 10-17, 2015.
2. 椎谷由実, 坂上明子, 山本英子 : 緊急帝王切開における分娩体験の受容と自分なりの意味づけを促す看護. 母性衛生, 55 (4), 643-650, 2015.
3. 前原邦江, 森恵美, 土屋雅子, 坂上明子, 岩田裕子, 小澤治美, 前川智子, 森田亜希子, 望月良美, 佐伯章子, 青木恭子, 玉腰浩司 : 高年初産婦の産後2か月における育児ストレスを予測する要因. 千葉大学大学院看護学研究科紀要, 37, 27-35, 2015.
4. 森恵美, 土屋雅子, 岩田裕子, 坂上明子, 前原邦江, 青木恭子, 小澤治美, 森田亜希子, 前川智子, 望月良美, 佐伯章子 : 産後の蓄積疲労予防のための看護介入に関するシステマティックレビュー - 日本の高年初産婦への適用に向けて. 千葉大学大学院看護学研究科紀要, 37, 37-45, 2015.

< 2015年4月～12月 >

5. 前原邦江, 森恵美, 岩田裕子, 坂上明子, 小澤治美, 青木恭子, 森田亜希子, 前川智子 : 初産婦の出産後の母親としての自己肯定感に関連する要因—不妊治療の影響に着目して—. 日本生殖看護学会誌, 12 (1), 5-14, 2015.

6. 前原邦江, 森恵美, 土屋雅子, 坂上明子, 岩田裕子, 小澤治美, 青木恭子, 森田亜希子, 前川智子, 望月良美: 出産施設を退院後から産後1か月までに母親役割の自信が高まる要因—高年初産婦と34歳以下初産婦を比較して—. 母性衛生, 56 (2), 264-272, 2015.
7. Tsuchiya M, Mori E, Sakajo A, Ozawa H: Effects of time and sleep on postpartum fatigue in older primiparous women: A pilot study. J Jp Psychosom Obstet Gynecol 20(2),207-214, 2015. (*2015年3月まで本研究科研究員)
8. Tsuchiya M*, Mori E, Sakajo A, Maekawa T, Iwata H, Maehara K, Morita A, Ozawa H, Mochizuki Y, Aoki K, Makaya M, Tamakoshi K: Age-specific determinants of post-partum fatigue in primiparous women. Japan Journal of Nursing Science. 2015. doi: 10.1111/jjns.12089. (*2015年3月まで本研究科研究員)
9. Iwata H, Mori E, Tsuchiya M*, Sakajo A, Maehara K, Ozawa H, Morita A, Maekawa T, Saeki A.: Objective sleep of older primiparous Japanese women during the first 4 months postpartum: An actigraphic study. International Journal of Nursing Practice, 21 (Suppl. 1): 2-9, 2015. (*2015年3月まで本研究科研究員)
10. Mori E, Maehara K, Iwata H, Sakajo A, Tsuchiya M*, Ozawa H, Morita A, Maekawa T, Saeki A.: Comparing older and younger Japanese primiparae: Fatigue, depression and biomarkers of stress. International Journal of Nursing Practice, 21 (Suppl. 1), 10-20, 2015. (*2015年3月まで本研究科研究員)
11. Iwata H, Mori E, Tsuchiya M*, Sakajo A, Maehara K, Ozawa H, Morita A, Maekawa T, Aoki K, Makaya M, Tamakoshi K. Predicting early post-partum depressive symptoms among older primiparous Japanese mothers. Japan Journal of Nursing Science, 2015. doi: 10.1111/jjns.12069. (*2015年3月まで本研究科研究員)
12. Iwata H, Mori E, Tsuchiya M*, Sakajo A, Maehara K, Ozawa H, Morita A, Maekawa T, Aoki K, Tamakoshi K: Predictors of depressive symptoms in older Japanese primiparas at 1 month post-partum: A risk-stratified analysis. Japan Journal of Nursing Science, doi: 10.1111/jjns.12099, 2015. (*2015年3月まで本研究科研究員)

【学会発表抄録】

< 2015年1月～3月 >

13. Mori E, Maehara K, Tsuchiya M, Iwata H, Maekawa T, Mochizuki Y, Ozawa H, Morita A, Aoki A, Sakajo A, Tamakoshi K: Factors related to low maternal satisfaction among Japanese first-time mothers one month after childbirth: A logistic regression analysis. 18th EAFONS (February 5-6, 2015, National Taiwan University Hospital, Taipei, TAIWAN)
14. Iwata H, Mori E, Tsuchiya M, Sakajo A, Maehara K, Ozawa H, Morita A, Maekawa T, Aoki A, Mochizuki Y, Tamakoshi K: Predicting depressive symptoms at 1 month postpartum in older Japanese primiparas: A risk-stratified analysis. 18th EAFONS (February 5-6, 2015, National Taiwan University Hospital, Taipei, TAIWAN)
15. Jin Q, Mori E, Sakajo A: The Related Factors for Postpartum Depression Among Immigrants Women: A Literature Review. 18th EAFONS (February 5-6, 2015, National Taiwan University Hospital, Taipei, TAIWAN)
16. 橋本美幸, 高橋紀子, 坂上明子: 母親が感じた祖母から受けた産後の子育て支援の仕方の特徴. 日本助産学会誌, 28 (3), 499, 2015. 2
17. 橋本美幸, 高橋紀子, 坂上明子: 産後に母親が祖母から受けた子育て支援内容の特徴. 日本助産学会誌, 28 (3), 499, 2015. 2

< 2015年4月～12月 >

18. 常松莉奈, 坂上明子, 小澤治美: 在日外国人の母親への看護実践において助産師が感じる困難と工夫.

第33回千葉県母性衛生学会抄録集, 4, 2015.5

19. 田口歩美, 坂上明子: 産後のメンタルヘルスに関する文献検討－母性看護学及び助産学, 精神看護学, 公衆衛生学の教科書の分析－. 第33回千葉県母性衛生学会抄録集, 5, 2015.5
20. 山田夏生, 森恵美, 三國和美: 母子健康手帳の活用に関する文献研究. 第33回千葉県母性衛生学会抄録集, 5, 2015.5
21. 小山田梨紗*, 森恵美, 坂上明子: 自閉スペクトラム症の子どもを第一子にもつ母親の家族計画に対する認識. 第17回日本母性看護学会学術集会抄録集, 2015. (*2015年3月博士前期課程修了)
22. 太田愛*, 森恵美, 坂上明子: 高年初産婦の産後1か月間における夫婦間のサポート体験. 第17回日本母性看護学会学術集会抄録集, 2015. (*2015年3月博士前期課程修了)
23. Mori E, Maehara K, Sakajo A, Ozawa H, Morita A, Maekawa T, Tsuchiya M*, Iwata H, Mochizuki Y, Aoki K, Saeki A, Makaya M, Tamakoshi K: Factors affecting maternal role confidence among first-time mothers at the first month after childbirth: A comparison between older and younger groups. International Council of Nurses (ICN) 2015 Conference, Seoul, Republic of Korea, June 19-23, 2015. (*2015年3月まで本研究科研究員)
24. Mori E, Iwata H, Sakajo A, Aoki K, Maehara K, Tamakoshi K: Prevalence of postpartum depressive symptoms over 6 months postpartum: Association with maternal age and parity. ENDA (European Nurse Directors Association) & WANS (World Academy of Nursing Science) Congress, Hannover, Germany, October 14-17, 2015.
25. 福島裕子: 大学生の性の健康問題への対応 リプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点から. 第53回全国大学保健管理研究集会プログラム・抄録集, 23, 2015.

【単行書】

26. 前原邦江: 看護学入門12母子看護 第5版, メヂカルフレンド社, 2-7, 13-37, 2015.
27. 岩田裕子: 看護学入門12母子看護 第5版, メヂカルフレンド社, 75-98, 131-141, 2015.

【総説・短報・実践報告・資料・その他】

< 2015年1月～3月 >

28. Iwata H, Mori E, Tsuchiya M, Aoki K, Sakajo A, Saeki A, Mochiduki Y, Maehara K, Ozawa H, Morita A, Maekawa T: Nursing interventions to prevent postpartum depression during the first month postpartum for older Japanese primiparous women: a systematic review. 千葉大学大学院看護学研究科紀要, 37, 1-10, 2015.
29. 小澤治美, 坂上明子, 森恵美, 前原邦江, 前川智子, 森田亜希子, 土屋雅子, 岩田裕子, 青木恭子, 望月良美, 佐伯章子. 産後1か月間の母乳育児推進及び母親役割の自信を高めるための看護介入におけるシステマティックレビュー－日本の高年初産婦への適用に向けて－. 千葉大学大学院看護学研究科紀要, 37, 17-26, 2015.
30. 森恵美: 教育講演「助産師に伝えたい高年初産婦が求める助産ケア」, 第30回東京母性衛生学会学術セミナー, 2015.

< 2015年4月～12月 >

31. 森恵美: 理事長講演「高年初産婦に対する産後ケアのガイドライン」, 第17回日本母性看護学会学術集会, 2015.
32. 坂上明子, 森恵美, 小澤治美, 森田亜希子, 青木恭子, 土屋雅子*, 前川智子, 前原邦江, 岩田裕子, 佐伯章子, 望月良美, 眞茅みゆき, 玉腰浩司: [報告書] 日本の高年初産婦に特化した子育て支援ガイドラインの作成. 医療の広場, 55 (8), 18-21, 2015.8. (*2015年3月まで本研究科研究員)
33. 森恵美: 講演「助産師の専門性を活かす「高年初産婦へのケア」」, 平成27年度千葉県助産師会 通常総会, 2015
34. 森恵美: セミオープンシステムを利用し経膈分娩した出産準備体験. 日本母性衛生学会学術奨励賞受賞.

35. 森恵美：講演「今、なぜ妊娠・出産包括支援事業が必要なのかを考える」平成27年度母子保健指導者研修会，千葉，2015.

〔研究状況〕

本研究分野では、Reproductive Healthに関連した健康問題を持つ女性や、周産期などにある女性の健康や母性性の発達を促す看護方法に関する研究を行っている。家族育成期の女性とそのパートナーとの関係、家族についても調査、検討を重ねている。森らは、平成23年2月から平成26年3月末まで、内閣府より「最先端・次世代研究開発プログラム」の助成を受け、「日本の高年初産婦に特化した子育て支援ガイドラインの開発」に取り組んだ。今年度、追加分析を行い、その研究成果を国際学会（13,14,23,24）にて発表、和論文4件（3,4,5,6）、洋論文4件の原著論文（7～12）にまとめた。また、森は平成26年度より、文科省科研費の助成を受け「日本の高年初産婦に特化した子育て支援ガイドラインの評価研究」（基盤研究（A）研究代表者：森恵美）に取り組み、坂上、小澤、青木も参画している。その他、森は科学技術振興機構科学技術に資する人材育成に関するシステム改革「理系女性教員キャリア支援プログラム」（研究代表者：齋藤康）に2015年3月まで参画していた。さらに森は千葉大学（総括責任者：徳久剛史）が平成27～32年度に採択された、ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）、および、文科省科研費補助金（基盤研究（B））「歯科専門職との連携による更年期女性と在宅高齢者の口腔ケアの質の向上に関する研究」（研究代表者：岡田忍）に研究分担者として参画している。

坂上は、平成26年度より文科省科研費を得て「高度生殖医療を受けた妊婦の母親役割獲得を促す看護介入プログラムの改良」（基盤研究（B）研究代表者：坂上明子）に取り組み、森、青木、三國も研究分担者として参画している。また、「母体・胎児集中ケアのための研修プログラムの開発に関する研究」（基盤研究（C）研究代表者：大月恵理子）、および「IT技術を用いた災害看護パフォーマンス評価指標の開発」（挑戦的萌芽研究 研究代表者：臼井いづみ）に連携研究者として参画している。小澤は、科研費を得て「双子のひとりが障がいをもつ母親の双子の親になる体験を表す概念モデルの創出」（若手研究（B）研究代表者：小澤治美）に取り組んでいる。

健康管理看護学専門領域

〔原著〕

< 2015年1月～3月 >

1. 藤田淳子，福井小紀子，池崎澄江：在宅ケアにおける医療・介護職の多職種連携行動尺度の開発，厚生生の指標，62(6)，1-9，2015.

< 2015年4月～12月 >

2. Ikezaki S, Ikegam N : Factors Related to Deaths in Nursing Homes and not in Hospitals in Japan, Journal of Community and Public Health Nursing, 1 : 107, 2015.

〔学会発表抄録〕

< 2015年1月～3月 >

3. 福井小紀子，藤田淳子，乙黒千鶴，辻村真由子，池崎澄江，板垣園子：在宅終末期ケアにおける多職種連携の実態調査(第1報) 多職種チームの状況. 第17回日本在宅医学会大会，岩手，52，2015.
4. 乙黒千鶴，藤田淳子，辻村真由子，池崎澄江，福井小紀子，磯野有樹子：在宅終末期ケアにおける多職種連携の実態調査(第2報) 多職種連携行動の関連要因. 第17回日本在宅医学会大会，岩手，53，2015.
5. 藤田淳子，乙黒千鶴，辻村真由子，池崎澄江，福井小紀子，安東いつ子：在宅終末期ケアにおける多職種連携の実態調査(第3報) チームリーダーの状況，第17回日本在宅医学会大会，岩手，52，2015.
6. 辻村真由子，藤田淳子，乙黒千鶴，池崎澄江，福井小紀子，井川 斉：在宅終末期ケアにおける多職種連携の実態調査(第4報) 連携上の成功要因および課題，第17回日本在宅医学会大会，岩手，53，

2015.

< 2015年4～12月 >

7. 大塚真理子, 池崎澄江, 山田響子, 酒井郁子, 長坂育代, 黒河内仙奈, 山本武志, 渡邊美和, 増島麻里子, 大塚知子, 眞嶋朋子: 大学病院の医師と看護師以外の多職種における専門職連携実践力の特徴 - CICS29の比較から. 第8回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会, 33, 2015.
8. 池崎澄江, 増島麻里子, 長江弘子, 岩城典子, 谷本真理子, 櫻井智穂子, 和泉成子, 齊藤俊宏, 田村尚亮: 慢性疾患を持つ高齢者におけるエンドオブライフケアと事前指示書に関する認識. 日本老年看護学会第20回学術集会, 204, 2015.
9. 路璐, 小室直美, 鈴木友子, 池崎澄江, 北池正: 教育機関における国際交流・留学生の受け入れに関する調査. 日本看護研究学会雑誌, 38(3), 293, 2015
10. Tomoko Majima, Sumie Ikezaki, Ikuko Sakai, Ikuyo Nagasaka, Shuichi Yamamoto, Mariko Masujima, Kana Kurokohchi: Association between communication, competency for interprofessional collaborative practice, and team performance in Japan. AMEE2015 - An International Association for Medical Education, 504, 2015.
11. 渡邊美和, 増島麻里子, 眞嶋朋子, 池崎澄江, 黒河内仙奈, 大塚真理子, 山田響子, 長坂育代, 大塚知子, 酒井郁子: 大学病院の看護師長が認識している多職種連携実践上の課題. 千葉看第21回学術集会集録, 37, 2015.
12. 酒井郁子, 池崎澄江, 長坂育代, 黒河内仙奈, 大塚真理子, 渡邊美和, 増島麻里子, 大塚知子, 眞嶋朋子: 大学病院における専門職連携実践に関する研究 第1報 看護師・医師の専門職連携実践自己評価の部署間比較. 第35回日看科会学術集会講演集, 707, 2015.
13. 長坂育代, 黒河内仙奈, 池崎澄江, 増島麻里子, 渡邊美和, 酒井郁子, 大塚真理子, 大塚知子, 眞嶋朋子: 大学病院における専門職連携実践に関する研究 第2報 看護師の専門職連携実践の評価と職務満足度との関連. 第35回日看科会学術集会講演集, 708, 2015.
14. 若杉歩, 黒田久美子, 河部房子, 野地有子, 小山田恭子, 北池正: 看護教育 - 実践連携評価ツールの開発 ~ 附属病院をもたない看護系大学と実習病院のトップ管理者への適応と精練 ~. 第19回日本看護管理学会学術集会抄録集, 262, 2015.
15. 渡辺悦子, 李廷秀, 森克美, 片岡裕介, 北池正: 中学生の活発な身体活動に影響する近隣の環境特性. 第80回日本民族衛生学会総会講演集, 78-79, 2015.

【報告書】

< 2015年1月～3月 >

16. 北池正, 池崎澄江, 鈴木友子, 小室直美, 路璐: 平成26年度千葉県委託事業 外国人看護師導入に係る調査研究事業 報告書, 2015

【総説・短報・実践報告・資料・その他】

< 2015年1月～3月 >

17. 諏訪さゆり, 池崎澄江, 辻村真由子, 岡本有子, 小長谷百絵, 真田弘美, 千葉由美, 長畑多代, 長谷川真澄, 水野敏子, 堀内ふき: 日本老年看護学会会員における研究費の申請・獲得に関する実態調査 - 文部科学省科学研究費に焦点をあてて, 老年看護学, 19(2), 85-91, 2015.

< 2015年4～12月 >

18. 福井小紀子, 藤田淳子, 池崎澄江, 辻村真由子, 乙黒千鶴: 顔の見える関係がきたあとの多職種連携とは? 連携力の評価の視点(第1回)「連携」の中身を評価しよう 連携力の3つのレベルと評価尺度, 訪問看護と介護, 20(11), 936-42, 2015.
19. 福井小紀子, 藤田淳子, 池崎澄江, 辻村真由子, 乙黒千鶴: 顔の見える関係ができたあとの多職種連携とは? 連携力の評価の視点(第2回) 地域別×職種別でみる各地域の多職種連携の強み, 訪問看護と介護, 20(12), 1021-1027, 2015.

【研究状況】

領域としては、医学部附属病院と協力して外国人看護師の導入に関する調査研究事業に取り組んでいる(9, 16)。北池は、看護学教育と実践との連携を目指した連携評価ツールの開発(14)や、健康増進における地域環境が身体活動に及ぼす影響(15)の研究に取り組んでいる。池崎は、在宅ケアの連携(3-6, 18-19)や、専門職連携(7,10-13)に関する研究に取り組んでいる。

精神看護学専門領域

【学会発表】

< 2015年1～3月 >

1. Nakabayashi A, Nosaki A : The role of forensic psychiatric nursing in family support. 18th East Asia Forum of Nursing Scholars (EAFONS) taking place over Feb 5-6, 2015 at Taipei, Taiwan
2. 吉永尚紀, 野崎章子, 宇野澤輝美枝, 浦尾悠子, 林佑太, 清水栄司. 精神看護領域における認知行動療法の実践・研究の動向と課題：系統的文献レビュー. 第7回日本不安症学会学術集会. 2015.2月14日, 広島

< 2015年4～12月 >

3. 野崎章子, 青木勉, 窪田彰, 丸谷俊之, 西尾彰泰, 篠原慶朗, 手林佳正 : カンボジアにおけるメンタルヘルス -2001年の基礎調査より-. 第22回多文化間精神医学会学術総会プログラム・抄録集. p77, 2015. 10月3-4日, 東京
4. 西尾彰泰, 丸谷俊之, 窪田彰, 野崎章子, 篠原慶朗, 青木勉 : 途上国における持続可能な精神保健制度の確立に関する検討. 第30回日本国際保健医療学会学術大会, 2015. 11月21-22日, 金沢
5. 小早川里絵, 井崎京子, 野崎章子 : 自治体病院看護師の勤務継続意志と職場環境との関連. 第35回日本看護科学学会学術集会講演集. p705, 2015年12月5-6日, 広島

【総説・短報・実践報告・資料・その他】

< 2015年4～12月 >

6. 吉永尚紀, 野崎章子, 宇野澤輝美枝, 浦尾悠子, 林佑太, 清水栄司 : 日本の看護領域における認知行動療法の実践・研究の動向 : 系統的文献レビュー. 不安症研究, 6(2), 100-112, 2015
7. Nosaki A, Otsuka K : Psychological impact of Great East Japan Earthquake for Japanese-Brazilian people living in Japan. Asia-Pacific Psychiatry, 7, Supplement S1 p31, 2015
8. Yoshinaga N, Nosaki A, Unozawa K, Hayashi Y, Shimizu E : A systematic review of cognitive behavioral therapy in nursing field in Japan. Asia-Pacific Psychiatry, 7, Supplement S1 p26, 2015
9. Yoshinaga N, Nosaki A, Hayashi Y, Tanoue H, Shimizu E, Kunikata H, Okada Y, Shiraishi Y : Cognitive Behavioral Therapy in Psychiatric Nursing in Japan. Nursing Research and Practice, Volume 2015 (2015), Article ID 529107, 9 pages <http://dx.doi.org/10.1155/2015/529107>

【報告書】

< 2015年1～3月 >

10. 小原泉, 野崎章子 : CRCの人材像. 厚生労働省科学研究補助金医療技術実用化総合研究事業「臨床研究コーディネーター養成カリキュラムの標準化に関する研究」(研究代表者: 楠岡英雄) 平成25年度～26年度総合研究報告書. 5-8, 2015

【研究状況】

精神看護学教育研究分野では、精神障害をもちながら地域で暮らす人々とその家族、ストレス状況にある人々のメンタルヘルスに焦点をあて、当事者が持つ力を活かし、その人らしく地域継続するための看護支援方法に関する研究に取り組んでいる。また、精神看護技術の向上、そして看護職者のキャリア開発に

関する研究を継続して行っている。

精神障害をもちながら暮らす人々とその家族への支援として、館は触法精神障害者の地域生活継続支援を目的とした研究に着手しており、これに関連して文献研究結果を発表した(1)。触法精神障害者の地域生活実態と支援者の取り組みについて明らかにした成果について、成果発表の準備に取り組んでいる。さらに、今後は、新たに、精神障害をもちながら地域生活を送る人々とピアサポートに関する研究を計画している。

野崎はストレス状況にある人々へのメンタルヘルス支援として、昨年度までの文部科学省科学研究費補助金(基盤研究(C))による、在日ブラジル人の東日本大震災の被災体験と心的外傷後ストレス障害についてその研究成果を発表した(7)。平成27年度よりあらたに同科学研究費補助金(基盤研究(C))を受け、地域に暮らす精神障害者の被災体験をふまえたレジリエントコミュニティ形成支援に関する研究を開始した。

また、国内外の多職種専門家と連携し、社会資源に乏しい途上国のメンタルヘルス支援に関する調査研究にも着手した(3, 4)。

精神看護技術向上に資する研究としては、学内外の研究者と連携し、認知行動療法について文献研究を行い、特に国内の状況についてまとめ、成果発表を行った(2, 6, 8, 9)。

看護師のキャリア開発に関する研究では、昨年度より継続している看護師の勤務継続について成果発表を行い(5)、新たに、学際的な専門家チームによる臨床研究コーディネーター養成カリキュラムの標準化のプロジェクトについて、野崎が研究協力者として参加した(10)。

地域看護学専門領域

【原著】

< 2015年1～3月 >

1. Sachiko Ogawa, Yoshinori Takahashi, Misako Miyazaki : The Current Status and Problems with the Implementation of Interprofessional Education in Japan : An Exploratory Study. Journal of Research in Interprofessional Practice and Education, 5 (1), 2015.
<http://www.jripe.org/index.php/journal/article/view/181/114>

< 2015年4～12月 >

2. 吉田絵里*, 石丸美奈, 宮崎美砂子 : 東日本大震災で被災した男性高齢者の生活におけるセルフケアの特徴. 千葉看会誌21(1), 1-9, 2015.
*2015年3月博士前期課程修了
3. 鈴木悟子, 宮崎美砂子 : 30歳代男性勤労者の健康学習サイクルの構造. 千葉看会誌21(1), 11-21, 2015.

【学会発表抄録】

< 2015年1～3月 >

4. Satoko Suzuki, Mina Ishimaru, Misako Miyazaki : Health learning cycles of male in their 30s identified using life stories. 18th East Asia Forum of Nursing Scholars Taiwan, Abstract Book Oral Presentation, 101, 2015.
5. Saori Iguchi*, Mina Ishimaru, Misako Miyazaki : Case studies of the professional growth of public health nurses who experienced the Great East Japan Earthquake. 18th East Asia Forum of Nursing Scholars Abstract Book Poster Presentation, 658-659, 2015.
*2015年3月博士前期課程修了
6. 阿部玲子, 石丸美奈, 宮崎美砂子 : 就労している中年期の独身男性が親を介護したことでの地域社会との関わりを通じた変化. 文化看護学会第7回学術集会抄録集, 16, 2015.

< 2015年4～12月 >

7. Mina Ishimaru, Yukari Sugita, Mai Ishikawa(Oral) : Facilitating factors of practice research for

- the improvement of public health nursing practice. 6th International Conference on Community Health Nursing Research, 19th-21st, August, 2015.
8. Hiroko Okuda, Misako Miyazaki, Mina Ishimaru, Hamako Katsumata : Study of the Duties of Public Health Nurses in Supervisory Positions in Japanese Local Governments. 6th International Conference on Community Health Nursing Research, 19th-21st, August, 2015.
 9. Yoko Yamada, Yuko Ushio, Mitsuko Matsushita, Mina Ishimaru, Noriko Sato, Noriko Hosoya, Misa Shiomi, Misako Miyazaki, Mitsuko Kitayama : The details and characteristics of public health nurses' thinking throughout the process of expanding activities from an individual to community. 6th International Conference on Community Health Nursing Research, 19th-21st, August, 2015.
 10. Yukari Sugita, Mina Ishimaru, Narumi Ide, Mitsuko Matsushita, Mai Ishikawa, Yasuko Ogata : Conditions to promote the continuous practice research for the public health nurses of the health center. 6th International Conference on Community Health Nursing Research, 19th-21st, August, 2015.
 11. 宮崎美砂子, 佐伯和子, 上田修代, 石川麻衣, 平野美千代 : 災害に対する地域保健活動と学会の役割～原子力災害被災地域への発災後3年8か月時の訪問を通して捉えた地域保健活動の現状と課題の実際を踏まえて～平成24-26年度 日本地域看護学会災害支援のあり方検討プロジェクト. 日本地域看護学会第18回学術集会講演集, 33, 2015.
 12. 石丸美奈, 宮崎美砂子, 奥田博子 : 統括的な役割を担う保健師に必要な経験に関する研究. 日本地域看護学会第18回学術集会講演集, 51, 2015.
 13. 奥田博子, 宮崎美砂子, 石丸美奈 : 統括的な役割を担う保健師の機能推進要因に関する研究 : 日本地域看護学会第18回学術集会, 177, 2015.
 14. 飯野理恵, 石丸美奈, 時田礼子, 岩瀬靖子, 上田修代, 杉田由加里, 栗栖千幸, 佐藤紀子, 宮崎美砂子 : デルファイ法を用いた予防活動の持続・発展に有用な地域看護技術項目の検討 (その1) —第1回目及び第2回目の質問紙調査結果—. 日本地域看護学会第18回学術集会講演集, 126, 2015.
 15. 竹村和子, 牛尾裕子, 小巻京子, 宮芝智子, 嶋澤順子, 松下光子, 塩見美抄, 飯野理恵 : 海外文献からみた学士課程における地域看護学教育の現状 (第1報) —実習・演習プログラムに焦点をあてて—. 日本地域看護学会第18回学術集会講演集, 57, 2015.
 16. 小巻京子, 牛尾裕子, 竹村和子, 宮芝智子, 嶋澤順子, 松下光子, 塩見美抄, 飯野理恵 : 海外文献から見た学士課程における地域看護学教育の現状 (第2報) —実習・演習プログラムに焦点をあてて—. 日本地域看護学会第18回学術集会講演集, 57, 2015.
 17. 鈴木悟子, 宮崎美砂子 : 30歳第男性の生活習慣病予防のための健康学習サイクルの段階と内容. 第74回日公衛会抄録集, 296, 2015.
 18. 中瀬克己, 犬塚君雄, 遠藤幸男, 佐々木隆一郎, 菅原智, 前田秀雄, 田上豊資, 坂元昇, 金谷泰宏, 遠藤久禎, 尾島俊之, 宮崎美砂子 : 大規模災害従事者自身の健康保持に関する研修方策の検討. 第74回日公衛会抄録集, 463, 2015.
 19. 宮崎美砂子, 奥田博子, 春山早苗, 牛尾裕子, 石川麻衣, 岩瀬靖子 : 地域保健活動拠点における災害時の地域診断項目 (案). 第74回日公衛会抄録集, 466, 2015.
 20. 井口紗織*, 宮崎美砂子, 石丸美奈 : 東日本大震災を経験した被災市町村保健師の保健活動における経験に対する意味づけ. 第74回日公衛会抄録集, 472, 2015.
*2015年3月博士前期課程修了
 21. 奥田博子, 宮崎美砂子, 守田孝恵, 中板育美, 福島富士子, 橘とも子, 石丸美奈, 水野亮子, 中西信代, 橋本結花, 村中峯子 : 地域保健に従事する保健師の計画的人材育成に関する実態とニーズ. 第74回日公衛会抄録集, 490, 2015.
 22. 石垣和子, 大湾明美, 宮崎美砂子, 山本春江, 塚田久恵, 米澤洋美, 阿川啓子, 金子紀子, 曾根志穂, 北野浩子, 角地孝洋 : 近年の地域保健を取り巻く環境の変化と保健師活動の様相に関する研究. 第74回日公衛会抄録集, 515, 2015.
 23. 時田礼子, 宮崎美砂子 : 自立支援法施行後の保健部門の保健師による精神保健活動における予防的意

義の高い個別支援の特徴. 千葉看護学会第21回学術集会講演集, 31, 2015.

24. 植村直子, 宮崎美砂子: 看護学雑誌における2005年から2014年のメタ統合研究の動向. 千葉看護学会第21回学術集会講演集, 44, 2015.
25. 吉田絵里*, 宮崎美砂子, 石丸美奈: 東日本大震災で被災した男性高齢者の生活におけるセルフケアの様相: 日本災害看護学会誌第17回年次大会, 17(1), 187, 2015.
*2015年3月博士前期課程修了
26. 高橋在也, 岩城典子, 長江弘子, 石丸美奈, 清水直美, 吉本照子: 生き方の理解と支え合いのための場の模索-エンド・オブ・ライフを考える市民参加型プログラムの事例から-, 第27回日本生命倫理学会年次大会, 141, 2015.

【報告書】

< 2015年1~3月 >

27. 宮崎美砂子, 高橋平徳, 小河祥子, 酒井郁子: 専門職連携能力の高い医療系人材の持続的育成のための基盤強化. 文部科学省特別経費(プロジェクト分)平成23~25年度成果報告書, 1-111, 2015.
28. 宮崎美砂子, 石丸美奈: Competency獲得に必要な教育の量に関する研究. 地域保健に従事する人材の計画的育成に関する研究. (研究代表者: 奥田博子) 厚生労働科学研究費補助金(健康安全・危機管理対策総合研究事業)平成26年度 分担研究報告書, 2015.
29. 宮崎美砂子, 奥田博子, 春山早苗, 牛尾裕子, 石川麻衣, 駒形朋子, 岩瀬美津枝, 湯澤睦子, 丸山佳子, 中瀬克己, 岩瀬靖子: 災害時の被災市町村支援における地域診断項目とその活用に関する研究(分担研究者 宮崎美砂子). 厚生労働科学研究費補助金(健康安全・危機管理対策総合研究事業)大規模地震に対する地域保健基盤整備実践研究(研究代表者: 遠藤幸男・犬塚君雄)平成25-26年度 総合・分担研究報告書, 1-64, 2015.

【単行書】

< 2015年1~3月 >

30. 石丸美奈: 第1章 発達段階の特性に応じた活動論, II 成人・高齢者保健福祉活動, 1.健康づくり活動, 2.生活習慣病予防活動, 最新公衆衛生看護学第2版2015年版各論1(編集, 宮崎美砂子他), 日本看護協会出版会, 87-138, 2015.
31. 宮崎美砂子: 第1章 公衆衛生看護とは何か, 第4章 公衆衛生看護学研究. 最新公衆衛生看護学第2版2015年版総論(編集, 宮崎美砂子他), 日本看護協会出版会, 1-23, 332-364, 2015.

< 2015年4~12月 >

32. 宮崎美砂子: 地域における災害看護と専門教育. 第6章 連携する職種における災害への準備, 災害時の歯科保健医療対策-連携と標準化に向けて(編集: 中久木康一他), 一世出版, 270-273, 2015.

【総説・短報・実践報告・資料・その他】

< 2015年1~3月 >

33. Hashimoto A., Miyazaki M., Ishimaru M.: Adaptation of the elderly in shelters and temporary housing after the Great East Japan Earthquake: A focus on the interaction with their living environments Health Emergency and Disaster Nursing, 2(1), 23-27, 2015.
34. 島田裕子, 春山早苗, 宮崎美砂子, 奥田博子, 牛尾裕子, 石川麻衣, 駒形明子, 中瀬克己, 岩瀬靖子: 東日本大震災で被災した自治体保健師の災害時保健活動における地域診断の内容と情報収集方法. 日本ルーラルナース学会誌, 10, 41-50, 2015.

< 2015年4~12月 >

35. 宮崎美砂子, 佐伯和子, 上田修代, 石川麻衣, 平野美千代: 災害に対する地域看護活動と学会の役割(平成24~26年度日本地域看護学会災害支援のあり方検討プロジェクト). 日本地域看護学会誌 18(2,3), 103-110, 2015.

【研究状況】

地域看護学領域では、行政サービスを担う保健師の活動方法に焦点をあて、家族や地域で生活する人々に個別に関わる看護を基盤にしながら、ケア体制作り、地域づくり、行政施策づくりにかかわる公衆衛生看護の専門知識・技術の開発に取り組んでいる。

宮崎は、厚生労働科学研究費補助金を受け「大規模災害復興における地域保健活動拠点のマネジメント機能促進のための評価指標ツール開発に関する研究」に取り組んでいる(11)。また、平成25年度より文部科学省科学研究費補助金(基盤研究B)を受けて、「予防活動の持続・発展のための地域看護実践ガイドの作成と普及に関する研究」に取り組んでいる(14)。

石丸は、平成27年度より文部科学省研究費補助金(挑戦的萌芽研究)を受けて、「大学間連携による保健師業務研究サポートを通じたファカルティ・ディベロップメント」を開始した。また、分担研究者として、「行政保健師の実践の充実を目指した業務研究サポートモデルの開発」(基盤研究C, 研究代表者: 杉田由加里)(7, 10), 「個から地域へ展開する保健師の思考過程に着目した公衆衛生看護実践モデルの開発」(挑戦的萌芽研究, 研究代表者: 山田洋子)に取り組んでいる(9)。また、厚生労働科学研究費補助金「Competency獲得に必要な教育の量に関する研究」の研究協力者として、統括保健師の役割機能の発揮に必要な経験・教育について検討した(8,12,13,21)。

時田は平成26年度より「市町村福祉部門の保健師の精神保健福祉活動における個別支援評価指標の項目原案の作成」について、文部科学省科学研究費補助金(若手研究B)を受け、調査研究を実施した。飯野は、平成27年度より、文部科学省科学研究費補助金(基盤研究C)を受け、「住民との共働による生活習慣病予防活動の支援指標の開発」に取り組んでいる。

訪問看護学専門領域

【原著】

< 2015年4月～12月 >

1. 吉本照子, 長江弘子, 辻村真由子: 大学教員と訪問看護ステーション看護師の協働による新卒訪問看護師の育成プログラムにおける合意形成の課題－文化的視点からの考察－. 文化看護学会誌, 7(1), 2-12, 2015.

【学会発表抄録】

< 2015年4月～12月 >

2. 辻村真由子, 藤田淳子, 乙黒千鶴, 池崎澄江, 福井小紀子, 井川斉: 在宅終末期ケアにおける多職種連携の実態調査(第4報) 連携上の成功要因および課題. 第17回日本在宅医学会もりおか大会抄録集, 53, 285, 2015. (第17回日本在宅医学会もりおか大会優秀演題受賞)
3. 福井小紀子, 藤田淳子, 乙黒千鶴, 辻村真由子, 池崎澄江, 板垣園子: 在宅終末期ケアにおける多職種連携の実態調査(第1報) 多職種チームの状況. 第17回日本在宅医学会もりおか大会抄録集, 52, 284, 2015. (第17回日本在宅医学会もりおか大会優秀演題受賞)
4. 藤田淳子, 乙黒千鶴, 辻村真由子, 池崎澄江, 福井小紀子, 安東いつ子: 在宅終末期ケアにおける多職種連携の実態調査(第3報) チームリーダーの状況. 第17回日本在宅医学会もりおか大会抄録集, 52, 285, 2015. (第17回日本在宅医学会もりおか大会優秀演題受賞)
5. 乙黒千鶴, 藤田淳子, 辻村真由子, 池崎澄江, 福井小紀子, 磯野有樹子: 在宅終末期ケアにおける多職種連携の実態調査(第2報) 多職種連携行動の関連要因. 第17回日本在宅医学会もりおか大会抄録集, 53, 285, 2015. (第17回日本在宅医学会もりおか大会優秀演題受賞)
6. 島村敦子, 辻村真由子, 諏訪さゆり: イギリスにおける認知症高齢者のBPSDの薬物療法とケアの実際. 日本認知症ケア学会誌, 14(1), 174, 2015.
7. 湯本晶代, 岩田尚子, 諏訪さゆり, 辻村真由子, 島村敦子: 在宅ケアチームによる認知症高齢者への適正な薬物療法の支援に関する文献検討. 日本認知症ケア学会誌, 14(1), 216, 2015.
8. 渡邊章子, 諏訪さゆり: 認知症高齢者のグリーンワークに関する文献検討. 日本認知症ケア学会誌,

- 14(1), 263, 2015.
9. 諏訪さゆり (シンポジスト) : 日本の在宅認知症高齢者へのケアサービス. 第10回ソウル老年学国際学術シンポジウム, ソウル, 韓国, 2015.
 10. 能川琴子, 諏訪さゆり, 辻村真由子, 島村敦子 : 終末期にある在宅高齢者を介護する家族の経口摂取に関する経験-亡くなるまでの一年間に焦点を当てて-. 日本老年医学会雑誌, 52, supplement, 58-59, 日本老年看護学会第20回学術集会抄録集, 98, 2015.
 11. 高橋真理奈, 松浦美知代, 島村敦子, 辻村真由子, 諏訪さゆり : 生活障害へのケアを受けた認知症高齢者に関する終末期の病みの軌跡の検討-「口から食べること」に焦点を当てて-. 日本老年看護学会第20回学術集会抄録集, 168, 2015.
 12. 近藤亜由美, 辻村真由子, 島村敦子, 犬山彩乃, 諏訪さゆり : 千葉県における認知症の家族会の特徴の検討. 日本老年看護学会第20回学術集会抄録集, 170, 2015.
 13. 上野まり, 渋谷徳江, 中村順子, 佐藤美穂子, 湯本品代 : 看護職による応急仮設住宅に暮らす人々への健康支援の実際. 第20回日本在宅ケア学会学術集会講演集, 116, 2015.
 14. 春日広美, 諏訪さゆり : 在宅療養者の家族とのコミュニケーション・ノートに対する訪問看護師の反応. 第20回日本在宅ケア学会学術集会講演集, 153, 2015.
 15. Araki A, Ishigaki K, Sato N, Tsujimura M, Ito R : The intervention trial in discharge planning using the family support guideline in Japan : focusing on the families' constraining beliefs. 12th International Family Nursing Conference, Odense, Denmark, 2015.
 16. 吉岡大晶, 岩戸さゆき, 山本則子, 池田真理, 上別府圭子, 高井ゆかり, 野口麻衣子, 辻村真由子 : 現場発の事例研究を学会発表から論文作成へ : いちど立ち止まって, 自分の看護を考えませんか? (ワークショップ). 日本家族看護学会第22回学術集会プログラム・抄録集, 65, 2015.
 17. 高中誌織, 諏訪さゆり, 辻村真由子, 島村敦子 : 初回訪問における訪問看護師の情報収集の方法. 千葉看護第21回学術集会講演集, 39, 2015.
 18. Yanagibori R, Noji A, Suzuki T, Mochizuki Y, Tsujimura M, Sumitani D, Kanda K : Relevant factors in the experiences of difficulties with international patients in Japanese hospitals. 10th International Nursing Conference, Seoul, Korea, 2015.
 19. 野地有子, 望月由紀, 鈴木友子, 辻村真由子, 長谷川みゆき, 小嶋純, 菅田勝也 : 病院看護部からみた病院と看護の国際化にむけた現状調査 (第1報). 日本医療・病院管理学会誌, 52, supplement, 189, 2015.
 20. 望月由紀, 野地有子, 鈴木友子, 辻村真由子, 長谷川みゆき, 小嶋純, 菅田勝也 : 病院看護部からみた病院と看護の国際化にむけた現状調査 (第2報) 病院における通訳に焦点をあてて. 日本医療・病院管理学会誌, 52, supplement, 190, 2015.
 21. 辻村真由子, 佐藤奈保, 荒木暁子, 伊藤隆子, 石垣和子 : 家族の拘束的ビリーフに着目した家族支援ガイドラインの評価 : 病棟看護師による試用をとおして. 第35回日看科会学術集会講演集, 560, 2015.
 22. 鈴木友子, 野地有子, 近藤麻理, 辻村真由子, 望月由紀, 溝部昌子 : 看護学生の文化対応能力と影響要因に関する研究~opennessに着目したスケールを用いて~. 第35回日看科会学術集会講演集, 464, 2015.
 23. 山本則子, 池田真理, 高井ゆかり, 村山陵子, 辻村真由子, 山花令子, 齋藤凡, 野口麻衣子, 上別府圭子 : 『日本の現場発看護学』の構築を目指した事例研究方法の開発 (交流集会). 第35回日看科会学術集会講演集, 450, 2015.

【報告書】

< 2015年1月~3月 >

24. 国立大学法人 千葉大学 (代表 : 諏訪さゆり, 委員 : 朝田隆, 小川敬之, 田中美保子, 谷川良博, 中澤純一, 松浦美千代, 諏訪さゆり, 辻村真由子, 島村敦子) : 平成26年度厚生労働省老人保健事業推進費等補助金 (老人保健健康増進等事業) 動画教材「認知症ケアの考え方・高め方」の開発事業報告書 (DVD付), 2015.

25. 国立大学法人 千葉大学（代表：諏訪さゆり，委員：小川敬之，田中美保子，谷川良博，中澤純一，松浦美千代，諏訪さゆり，辻村真由子，島村敦子）：平成26年度厚生労働省老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業）動画教材「認知症ケアの考え方・高め方」の開発事業報告書別冊 認知症の生活障害と効果的なケア，2015.
26. 公益財団法人 日本訪問看護財団（代表：諏訪さゆり）：平成26年度厚生労働省老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業）在宅認知症者のステージごとの生活障害と行動・心理症状に応じたグッドプラクティスを普及するためのイラスト教材開発事業報告書，2015.
27. 公益財団法人 日本訪問看護財団（代表：諏訪さゆり）：平成26年度厚生労働省老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業）在宅認知症者のステージごとの生活障害と行動・心理症状に応じたグッドプラクティスを普及するためのイラスト教材開発事業報告書別冊 在宅認知症者のステージごとの生活障害に応じたケアガイド-イラストでわかるケアのヒント集-，2015.

< 2015年4月～12月 >

28. 田中康之，諏訪さゆり：座位移乗を選択する基準の検討～在宅療養者の自立支援に向けて～. 公益財団法人フランスベッド・メディカルホームケア研究・助成財団 第25回研究助成・事業助成報告書，35-51，2015.
29. 権平くみ子，山崎潤子，加瀬千鶴，木暮みどり，津野祥子，河野由紀，鈴木のり子，安齋美穂，諏訪さゆり，辻村真由子，島村敦子：病棟看護師と訪問看護師による慢性疾患患者への退院後訪問の実施と評価-継続看護の質向上を目指して-. 公益財団法人フランスベッド・メディカルホームケア研究・助成財団 第25回研究助成・事業助成報告書，237-257，2015.

【単行書】

< 2015年4月～12月 >

30. 諏訪さゆり：第2部 実践編 第1章 病の軌跡とエンド・オブ・ライフケア-病状経過のプロセスにおける支援のタイミングと留意点- V. 認知症とともに生きる人と家族のエンド・オブ・ライフケア. 日本在宅ケア学会（編），在宅ケア学 第6巻 エンド・オブ・ライフと在宅ケア. 第1版，ワールドプランニング，101-109，2015.
31. 辻村真由子：第2部 実践編 第2章 成長発達やライフスタイルに応じたエンド・オブ・ライフケアとチームアプローチ III. ひとり暮らし高齢者のエンド・オブ・ライフケア. 日本在宅ケア学会（編），在宅ケア学 第6巻 エンド・オブ・ライフと在宅ケア. 第1版，ワールドプランニング，134-141，2015.
32. 諏訪さゆり：第1章 基礎知識 1. 認知症に関する実態と在宅ケアにおける今後の課題. 公益社団法人日本訪問看護財団（監修），諏訪さゆり（編），Q&Aと事例でわかる訪問看護 認知症訪問看護. 中央法規出版，2-5，2015.
33. 諏訪さゆり：第1章 基礎知識 3. ICFの視点と認知症ケア. 公益社団法人日本訪問看護財団（監修），諏訪さゆり（編），Q&Aと事例でわかる訪問看護 認知症訪問看護. 中央法規出版，11-14，2015.
34. 辻村真由子：第1章 基礎知識 9. 認知症と合併症・二次障害 6. 尿路感染症. 公益社団法人日本訪問看護財団（監修），諏訪さゆり（編），Q&Aと事例でわかる訪問看護 認知症訪問看護. 中央法規出版，97-100，2015.
35. 辻村真由子：第2章 Q&A 3. 排泄に関する生活障害とケアのポイント. 公益社団法人日本訪問看護財団（監修），諏訪さゆり（編），Q&Aと事例でわかる訪問看護 認知症訪問看護. 中央法規出版，147-150，2015.
36. 諏訪さゆり：第2章 Q&A 6. 手洗い・洗顔に関する生活障害とケアのポイント. 公益社団法人日本訪問看護財団（監修），諏訪さゆり（編），Q&Aと事例でわかる訪問看護 認知症訪問看護. 中央法規出版，157-158，2015.
37. 諏訪さゆり：第2章 Q&A 7. 化粧・髭剃りに関する生活障害とケアのポイント. 公益社団法人日本訪問看護財団（監修），諏訪さゆり（編），Q&Aと事例でわかる訪問看護 認知症訪問看護. 中央

法規出版, 159-161, 2015.

38. 辻村真由子：第2章 Q&A 10. 排泄のアセスメントのポイント. 公益社団法人日本訪問看護財団 (監修), 諏訪さゆり (編), Q&Aと事例でわかる訪問看護 認知症訪問看護. 中央法規出版, 167-170, 2015.
39. 能川琴子：第2章 Q&A 19. ホームヘルパーとの連携のポイント. 公益社団法人日本訪問看護財団 (監修), 諏訪さゆり (編), Q&Aと事例でわかる訪問看護 認知症訪問看護. 中央法規出版, 195-196, 2015.
40. 藤田伸輔, 諏訪さゆり：第2章 Q&A 20. 病院の退院調整部門との連携のポイント. 公益社団法人日本訪問看護財団 (監修), 諏訪さゆり (編), Q&Aと事例でわかる訪問看護 認知症訪問看護. 中央法規出版, 197-198, 2015.
41. 辻村真由子：第2章 Q&A 22. 認知症の人の一人暮らしは可能?. 公益社団法人日本訪問看護財団 (監修), 諏訪さゆり (編), Q&Aと事例でわかる訪問看護 認知症訪問看護. 中央法規出版, 201-203, 2015.
42. 能川琴子：第3章 実践事例 5. 最期まで経口摂取を継続した事例. 公益社団法人日本訪問看護財団 (監修), 諏訪さゆり (編), Q&Aと事例でわかる訪問看護 認知症訪問看護. 中央法規出版, 235-239, 2015.
43. 諏訪さゆり, 湯浅美千代：ナーシング・スキル日本版 動画講義 認知症看護の基本-アルツハイマー病の高齢患者を中心に-. エルゼビア・ジャパン, 2015.

【総説・単報・実践報告・資料・その他】

< 2015年1月～3月 >

44. 諏訪さゆり, 池崎澄江, 辻村真由子, 岡本有子, 小長谷百絵, 真田弘美, 千葉由美, 長畑多代, 長谷川真澄, 水野敏子, 堀内ふき：日本老年看護学会会員における研究費の申請・獲得に関する実態調査- 文部科学省科学研究費に焦点をあてて-. 老年看護学, 19(2), 85-91, 2015.
45. 渡邊章子, 諏訪さゆり：病気の妻を亡くした認知症高齢者のグリーフワークへの支援. 認知症ケア事例ジャーナル, 7(4), 368-378, 2015.

< 2015年4月～12月 >

46. 能川琴子, 諏訪さゆり, 辻村真由子：第2章 [現場の声を聞いて] 現場との密な連携をめざして～教育機関の立場から①千葉大学看護学部 現場との連携を重視した在宅看護実習の展開- 新卒訪問看護師の育成まで見据えて. コミュニティケア, 17(13), 28-32, 2015.
47. 福井小紀子, 藤田淳子, 池崎澄江, 辻村真由子, 乙黒千鶴：“顔の見える関係”ができたあとの多職種連携とは? 連携力の評価の視点 (第1回) 「連携」の中身を評価しよう- 連携力の3つのレベルと評価尺度. 訪問看護と介護, 20(11), 936-942, 2015.
48. 福井小紀子, 乙黒千鶴, 藤田淳子, 池崎澄江, 辻村真由子：“顔の見える関係”ができたあとの多職種連携とは? 連携力の評価の視点 (第2回) 地域別×職種別でみる多職種連携の“強み” 医師主導型・訪問看護師主導型・ケアマネ主導型という3つの分類. 訪問看護と介護, 20(11), 1021-1027, 2015.

【研究状況】

平成27年3月に島村助教が転出し, 4月より能川助教が着任した.

訪問看護学領域では, 地域で生活する高齢者や認知症を有する在宅療養者に焦点を当て研究を行っている. 今年度も, フィンランドにおける一人暮らし高齢者の支援や認知症高齢者の行動・心理症状 (BPSD) の薬物療法の支援に関する調査を継続して実施した. 領域として, 千葉大学で実施している「動画教材『認知症ケアの考え方・高め方』の開発」(平成26年度厚生労働省老人保健事業推進費等補助金 (老人保健健康増進等事業)) に諏訪は研究代表者, 辻村と島村は事業担当者として, 「実務経験者を対象とした認知症高齢者看護の学習・教育方法論の構築」(平成26年度～28年度科学研究費助成事業 (挑戦的萌芽), 研究代表者: 湯浅美千代) に諏訪は研究分担者, 辻村と島村は連携研究者として取り組んだ. また, 当領域と千葉県訪問看護ステーション連絡協議会, 千葉大学医学部附属病院地域医療連携部の看護師との共同で,

「継続看護の質向上を目指した病棟看護師と訪問看護師による退院後訪問の実施と評価」に関する研究を、公益財団法人フランスベッド・メディカルホームケア研究・助成財団平成26年度研究助成金（研究代表者：権平くみ子）および千葉県在宅ネットワーク在宅医療・介護普及促進事業補助金（平成26年度事業）（事業代表者：権平くみ子）を得て実施した。

諏訪は、平成26年度厚生労働省老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業）による在宅認知症者のステージごとの生活障害と行動・心理症状に応じたグッドプラクティスを普及するためのイラスト教材開発事業（研究代表者：諏訪さゆり）に関する研究成果を発表した。また「BPSDの薬物療法を実施している在宅認知症高齢者と家族のための支援指針の開発」（平成25～28年度科学研究費助成事業（基盤研究(B)）に研究代表者として取り組んでいる。さらに、平成27年度厚生労働省老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業）による「認知症の医療介護連携、情報共有ツールの開発に関する研究」（研究者代表：大島伸一）および「認知症の人の行動・心理症状(BPSD)や身体合併症対応など循環型の医療・介護等の提供の在り方に関する調査研究」（研究者代表：大島伸一）にも構成員として参画している。

辻村は、研究代表者として「一人暮らし高齢者の在宅療養生活を支える訪問看護モデルの構築」（平成25～27年度科学研究費助成事業（若手研究(B)）に継続して取り組んだ。また、研究分担者として、「新人訪問看護師の実践力向上に向けた自己決定的学習を促す学習支援ツールの開発と検証」（平成26～29年度科学研究費助成事業（基盤研究(B)）研究代表者：吉本照子）、「『日本の現場発看護学』の構築を目指した事例研究方法の開発」（平成26～28年度科学研究費助成事業（挑戦的萌芽）研究代表者：山本則子）等に参画している。

能川は、平成27年度科学研究費助成事業（研究活動スタート支援）を受け、「経口摂取を望む終末期高齢者・家族を支援する訪問看護師の価値観と看護実践の変容過程」の研究代表者として取り組んでいる。

理論看護学専門領域

【学会発表抄録】

< 2015年1月～3月 >

1. Shinsuke Hashiuchi, Toshie Yamamoto, Akiko Nagata, Yukiko Abe, Ayumi Suematsu : The development of a framework to analyse the nursing process in critical care nursing. 18th East Asian Forum Of Nursing Scholars, TAIWAN, February, 2015.
2. Chika Matsuda, Toshie Yamamoto, Akiko Nagata, Yukiko Abe, Ayumi Suematsu : Meta-analysis of scientific nursing theory. 18th East Asian Forum Of Nursing Scholars, TAIWAN, February, 2015.
3. Ayumi Takakura, Toshie Yamamoto, Akiko Nagata, Yukiko Abe, Ayumi Suematsu : The recent trend of horicultural therapy and consideration of the therapeutic effects thereof from a health perspective. 18th East Asian Forum Of Nursing Scholars, TAIWAN, February, 2015.
4. Yuka Kanai, Toshie Yamamoto, Akiko Nagata, Yukiko Abe, Ayumi Suematsu : The structure of nursing care for patients with intractable neurological disease-analysis of a nurse's interaction with a patient who had myasthenia gravis. 18th East Asian Forum Of Nursing Scholars, TAIWAN, February, 2015.

< 2015年4月～12月 >

5. Toshie Yamamoto, Akiko Nagata, Shu Chun Chien, Fusako Kawabe : Main Factors for Creating Nursing Curriculum Including Oriental Medicine and Challenges of Its Implementation : A Case Study of a Taiwan University. STTI 43rd BIENNIAL CONVENTION, Las Vegas, November, 2015.
6. Shu Chun Chien, Toshie Yamamoto, Takeshi Matsumoto, Yoshiko Wazumi, Akiko Nagata, Fusako Kawabe : Relationships between Ryodoraku Measurements and Lifestyle, Based on the

Concepts of Oriental Medicine. STTI 43rd BIENNIAL CONVENTION, Las Vegas, November, 2015.

7. Fusako Kawabe, Shu Chun Chien, Toshie Yamamoto, Akiko Nagata : Main Factors for Creating a Nursing Curriculum Including Oriental Medicine and Challenges of Its Implementation : A Case Study of a Japanese University. STTI 43rd BIENNIAL CONVENTION, Las Vegas, November, 2015.
8. 片桐智子, 山本利江, 和住淑子, 錢淑君, 河部房子, 山岸仁美, 新田なつ子, 寺島久美, 戸田肇, 嘉手苺英子, 宮里智子, 丸山香織, 前田隆 : 看護基礎教育課程における統合実習の評価基準構築に向けて－統合実習の取り組みの実際から－. 第35回日本看護科学学会学術集会講演集, 203, 2015.
9. 遠藤未希, 片桐智子, 丸山香織, 前田隆 : 高齢者の「生きがい」は何処にあるか?－人工膝関節置換術を受けた患者事例の分析－. 第35回日本看護科学学会学術集会講演集, 318, 2015.

【総説・短報・実践報告・資料・その他】

< 2015年4月～12月 >

10. 山本利江 : セッション1『国内各地域における取り組み』いわきの地で看護の将来ビジョンを実現しましょう! . 浜通り看護研究会第1回大会

【研究状況】

本教育研究分野では、理論看護学の立場からナイチンゲール看護論を学問的に追及し、その継承・発展を目指した教育・研究活動を行っている。

科学研究費補助金を受けた「高度先進医療施設における東洋医学系統の診療科における外来看護の構築」の一環では、山本は研究代表者として、永田は研究分担者として、東洋医学外来看護のカリキュラムの作成に関する要因と実施の課題－台湾の大学の事例研究（5）を発表した。山本、永田は研究分担者として東洋医学外来看護のカリキュラムの作成に関する要因と実施の課題－日本の大学の事例研究（7）を発表した。

山本は、研究分担者として「看護基礎教育課程における統合実習の評価基準構築に向けた実践事例集の作成」の一環として、看護基礎教育課程における統合実習の評価基準構築に向けて－統合実習の取り組みの実際から－（8）を発表した。また、「看護学生の『生活パターンと自覚症状の関係チャート』及び生活改善プロトコルの開発」にも取り組み、その中間成果を発表した（6）。また、セッションとして『国内各地域における取り組み』いわきの地で看護の将来ビジョンを実現しましょう！（10）にて発表した。このほか「看護実践能力の向上に向けた看護学生版リフレクション・フレームワークの開発」、「病院外来における患者・市民・実践者・研究者の新たなニーズや期待、役割発揮の可能性」、「F. Nightingaleの業績を現代に活かすための‘類比’の方法論に関する研究」にも継続して取り組んでいる。

ほかに、クリティカルケア看護の看護過程を分析するための概念枠組の開発（1）、科学的看護論のメタ分析（2）、園芸療法の近年の動向と健康という観点からみた園芸療法の効果の考察（3）、神経難病患者的看護の構造－重症筋無力症患者と看護師の関わり分析（4）を明らかにした。

看護教育学専門領域

【原著】

< 2015年1月～3月 >

1. 服部美香, 舟島なをみ : 問題解決場面におけるクライアント行動に関する研究－問題解決に向けた効果的な支援の実現を目ざして－. 看護教育学研究, 24(1), 9-24, 2015.
2. 神田尚子, 舟島なをみ, 中山登志子 : クライアントの意思決定を支援する看護師行動に関する研究. 看護教育学研究, 24(1), 25-40, 2015.
3. 定廣和香子, 舟島なをみ, 松田安弘 : 看護学実習中の医療事故防止に向けた教員の対策と実践. 看護教育学研究, 24(1), 41-55, 2015.

4. 森山美香, 舟島なをみ, 中山登志子: 看護師長としての望ましい行動－看護師長の知覚を通して－. 看護教育学研究, 24(1), 57-68, 2015.
5. 服部美香, 舟島なをみ, 中山登志子: 「教育ニードアセスメントツール－院内教育担当者用－」の開発. 看護教育学研究, 24(1), 101-113, 2015.

< 2015年4月～12月 >

6. 中山登志子, 舟島なをみ: 「教育ニードアセスメントツール－実習指導者用－」の開発－実習指導者の役割遂行を支援する看護継続教育の実現に向けて－. 日看研誌, 38(1), 73-83, 2015.
7. 中山登志子, 舟島なをみ, 定廣和香子, 横山京子, 松田安弘, 鈴木美和, 野本百合子, 山下暢子, 山澄直美, 亀岡智美: 大学院看護学研究科博士後期課程に在籍する学生の博士論文作成過程の経験. 千葉看会誌, 21(1), 33-42, 2015.
8. 宮芝智子, 舟島なをみ, 後藤佳子: 「教授活動自己評価尺度－看護学講義用－」の開発－自律的なファカルティ・ディベロップメントに向けて－. 千葉看会誌, 21(1), 23-31, 2015.
9. 金谷悦子, 舟島なをみ, 望月美知代: 大学院看護学研究科修士課程に在籍する学生の修士論文作成過程の経験に関する研究. 千葉看会誌, 21(1), 43-51, 2015.

〔学会発表抄録〕

< 2015年4月～12月 >

10. 中山登志子, 舟島なをみ, 岩波浩美: 看護師長の学習ニードの解明－「学習ニードアセスメントツール－看護師長用－」の開発に向けて－. 日本看護学教育学会第25回学術集会講演集, 233, 2015.
11. 中山登志子, 舟島なをみ: 「授業過程評価スケール－看護系大学院修士課程用－」の開発. 日看研誌, 38(3), 139, 2015.
12. 山下暢子, 中山登志子: 看護学実習中の学生が直面する問題の解明. 看護教育学研究, 24(2), 8, 2015.
13. 山下暢子, 中山登志子: 学習経験累積に伴う「看護学生が実習中に直面しやすい問題」の変化－学習進度による比較を通して－. 第35回日看科会学術集会講演集, 656, 2015.
14. 宮芝智子, 舟島なをみ, 後藤佳子: 看護学の講義における教授活動の現状. 日本看護学教育学会第25回学術集会講演集, 186, 2015.
15. 松田安弘, 舟島なをみ, 中山登志子: 「学習ニードアセスメントツール－教育担当者用－」の開発. 日本看護学教育学会第25回学術集会講演集, 190, 2015.
16. 相楽有美, 舟島なをみ, 中山登志子: 身体侵襲を伴う診療場面の医師と看護師間相互行為パターンの解明－患者への効果的な支援を目指して－. 看護教育学研究, 24(2), 14, 2015.
17. 岩波浩美, 舟島なをみ, 中山登志子: 「学習ニードアセスメントツール－看護部長用－」の開発－信頼性・妥当性の検証－. 看護教育学研究, 24(2), 16, 2015.
18. 横山京子, 舟島なをみ, 中山登志子, 山下暢子: 小児看護に携わる看護師の学習ニードに関する研究. 第35回日看科会学術集会講演集, 368, 2015.
19. 永野光子, 舟島なをみ, 鹿島嘉佐音: 病院に勤務する看護師の倫理的行動. 看護教育学研究, 24(2), 12, 2015.
20. 定廣和香子, 舟島なをみ, 松田安弘: 「実習安全のための教授活動自己評価尺度－看護学教員用－(試行版)」の作成. 第35回日看科会学術集会講演集, 252, 2015.
21. Nakayama T, Funashima N, Kameoka T, Nomoto Y, Yokoyama K, Nagano M: Development of a Learning Needs Assessment Tool for Nurse Managers to Offer Continuing Education Programs Which Reflect Their Learning Needs. 43rd BIENNIAL CONVENTION Sigma Theta Tau International, Las Vegas, USA, 2015.
22. Miyashiba T, Funashima N, Goto Y: Evidence to Support Faculty Development in Japan: Development of the Self-Evaluation Scale of Teaching Behavior in Nursing Lectures. 26th International Nursing Research Congress Sigma Theta Tau International, San Juan, Puerto Rico, 2015.

23. Kameoka T, Nagano M, Funashima N, Nakayama T : Application of King's Conceptual Framework and Theory of Goal Attainment in Japan between 1985-2014. King's International Nursing Group Conference 2015, Las Vegas, USA, 2015.
24. Sadahiro W, Funashima N, Nakayama T, Matsuda Y : Quality of Nursing Faculty Activities for Prevention Nursing Student's Medical Accident and Association to Their Attributes in Japan. 43rd BIENNIAL CONVENTION Sigma Theta Tau International, Las Vegas, USA, 2015.
25. Suzuki M, Funashima N : Educational Needs and Learning Needs of Visiting Nurses in Japan : Difference According to the Years of Home-Visit Nursing Care Experience. 43rd BIENNIAL CONVENTION Sigma Theta Tau International, Las Vegas, USA, 2015.

【報告書】

< 2015年1月～3月 >

26. 千葉大学大学院看護学研究科看護教育学教育研究分野研究推進コース編：看護教育学の構築と発展－その活動の軌跡－. 第7号, 2015.

【単行書】

< 2015年1月～3月 >

27. 舟島なをみ 他：アイモジンM. キング. 筒井真優美（編），看護理論家の業績と理論評価. 医学書院, 268-283, 2015.

< 2015年4月～12月 >

28. 中山登志子, 舟島なをみ, 山品晴美 他：看護実践・教育のための測定用具ファイル－開発過程から活用の実際まで－. 舟島なをみ（監），第3版, 医学書院, 2015.
29. 中山登志子, 舟島なをみ 他：院内教育プログラムの立案・実施・評価. 舟島なをみ（監），第2版, 医学書院, 2015.
30. 舟島なをみ：研究指導方法論－看護基礎・卒後・継続教育への適用－. 医学書院, 2015.
31. 舟島なをみ 他：アイモジンM. キング. 筒井真優美（編），看護理論－看護理論20の理解と実践への応用－. 第2版, 南江堂, 123-134, 2015.

【研究状況】

看護教育学領域は、看護基礎教育、看護卒後教育、看護継続教育の3領域にわたり研究活動を展開し、その成果を公表した。

【看護基礎教育】

効果的な学習支援に向け、看護学実習中に遭遇する問題を学生自身が客観的に理解するために活用可能な成果の産出を目指し、学生が直面する問題を解明した(12)。また、それらの問題が学習経験の累積に伴いどのように変化するかを学習進度の比較を通して明らかにした(13)。

看護学教員の自律的なファカルティ・ディベロップメントを支援するために、「教授活動自己評価尺度－看護学講義用－」を開発し(8, 22)、開発した尺度を用いて看護学の講義における教授活動の現状を明らかにした(14)。また、看護学実習中の医療事故防止に向け、教員が講じている対策と実践を質的帰納的に解明した(3)。この研究成果を基盤に「実習安全のための教授活動自己評価尺度－看護学教員用－」を開発し(20)、開発した尺度を用いて医療事故防止に向け教員が講じている対策と実践の質を明らかにした(24)。

一方、看護教育学領域は、今年度、新たに学術研究助成基金助成金（挑戦的萌芽研究）「教養教育授業評価スケールの開発と有効性検証－授業改善システムの構築に向けて－」（研究代表者：舟島なをみ，研究分担者：中山登志子他）が採択され、教養教育の授業の「構造」と「過程」の質を測定する「授業デザイン評価スケール」および「授業過程評価スケール」の開発に着手した。

〔看護卒後教育〕

看護系大学院博士前期課程に在籍する修士論文作成過程の経験(9)および博士後期課程に在籍する博士論文作成過程の経験(7)を解明した。また、看護学教員が授業の質向上に向け活用可能な「授業過程評価スケール－看護系大学院修士課程用－」を開発した(11)。

また、看護教育学領域は、今年度、新たに学術研究助成基金助成金（基盤研究(C)）「研究指導能力向上のための『研究指導評価スケール－看護学修士論文用一』の開発」（研究代表者：松田安弘，研究分担者：舟島なをみ，中山登志子）が採択され、修士論文完成に向けた研究指導の質向上に活用できる「研究指導評価スケール」の開発に着手した。

さらに、看護教育学領域は、2008年4月より、看護教育学を専攻した博士後期課程修了生を対象に「研究推進コース」を開講し、活動を継続している。これは、将来ポスト・ドクトラル・コース開設を視野に入れた活動であり、2014年の活動の成果を報告書としてまとめた(26)。

〔看護継続教育〕

看護継続教育プログラムの立案に向け、看護師長の学習ニーズを質的帰納的に解明し(10)、これを基盤に学習ニーズの診断に活用可能なアセスメントツールを開発した(21)。アセスメントツールの開発に向け、看護師長としての望ましい行動(4)、小児看護に携わる看護師の学習ニーズ(18)を解明した。また、実習指導者の教育ニーズの診断に活用可能なアセスメントツールを開発した(6)。さらに、院内教育担当者の教育ニーズおよび学習ニーズの診断に活用可能なアセスメントツールを各々開発した(5、15)。加えて、看護部長の学習ニーズの診断に活用可能なアセスメントツールを開発した(17)。既に開発したアセスメントツールを用いて、訪問看護師としての経験年数による教育ニーズと学習ニーズの相違を解明した(25)。

病院に勤務する看護師の倫理的行動自己評価尺度の開発に向け、看護師の職業活動における倫理的行動の全容を解明した(19)。また、クライアントの意思決定を支援できる看護職者養成に向け、クライアントの意思決定に関わる看護師の行動を概念化した(2)。さらに、クライアントの問題解決を導くために必要な支援への示唆を得るため、看護師との相互行為を通し問題解決できた場面におけるクライアントの行動を表す概念を創出した(1)。加えて、診療目標達成を支援できる看護職者養成に向け、身体侵襲を伴う診療場面における医師と看護師間相互行為パターンを解明した(16)。

一方、本教育研究分野は、今年度より、新たに学術研究助成基金助成金3件が採択され、各研究を開始している。3件のうち1件は、「医療事故防止のための『看護職包括型患者安全教育推進システム』の開発」（基盤研究(B)）（研究代表者：舟島なをみ，研究分担者：中山登志子他）であり、助産師、プリセプター、実習指導者、看護師長各々が活用可能な「医療事故防止能力自己診断尺度」の開発に向け、各対象別の医療事故防止対策の全容解明を目的とした研究に着手した。残る2件のうち1件は、「看護師の研究成果活用力向上を支援する問題克服型教育プログラム開発－EBNの推進－」（基盤研究(B)）（研究代表者：亀岡智美，研究分担者：舟島なをみ，中山登志子他）であり、教育プログラム開発のための理論的枠組みを構築するとともに、臨床看護師の研究成果活用力向上に関わる学習・教育・職場環境の現状解明に向けた質問紙2種類を作成した。残る1件は、「訪問看護師の『問題状況自己診断スケール』と診断手引きの開発」（基盤研究(C)）（研究代表者：鈴木美和，研究分担者：舟島なをみ）であり、尺度の開発に向け、訪問看護ステーションに就業する看護師が直面する問題の全容解明を目的とした研究に着手した。

〔その他〕

看護教育学領域は、キング看護理論を看護および教育の基盤とし、看護に関しては、クライアントと看護師の目標達成に向かう相互行為を重視する立場をとる。また、教育に関しては、すべての教育現象を教育目的達成に向かう人間と人間、人間と環境の相互行為の過程であるとする立場をとる。舟島は、著書「看護理論家の業績と理論評価」および「看護理論」（第2版）にキング理論の源泉、概要、クリティーク、実践への理論の応用等を概説した(27、31)。また、キング看護理論の概念枠組みと目標達成理論の日本における適用状況を調査し、King International Nursing Conference 2015において発表した(23)。

舟島は、自身が20年以上の歳月をかけて蓄積した研究指導に関わる経験知を集積し、その指導経験に基づき確立した指導の法則性を著書「研究指導方法論－看護基礎・卒後・継続教育への適用－」として執筆した(30)。また、著書「看護実践・教育のための測定用具ファイル」（第3版）は、2006年に初版が上梓さ

れ、2009年に第2版が出版された。第3版は、第2版に掲載された25種類に、新たに開発された14種類を加えた合計39種類の測定用具が掲載された(28)。さらに、著書「院内教育プログラムの立案・実施・評価」(第2版)は、2007年に初版が上梓され、この度、次の内容を新たに加えた第2版が出版された(29)。それらは、院内教育の一環である研修の過程を評価する尺度とその活用ガイドの掲載、研修事例2例の追加、院内教育プログラムの展開に活用可能な測定用具11種類の紹介である。

災害看護学教育研究分野

〔原著〕

< 2015年4月～12月 >

1. 岩崎弥生：被災下の「田野畑村」における自助と相互扶助。文化看護学会誌, 7(1), 41-46, 2015.

〔学会発表抄録〕

< 2015年1月～3月 >

2. Noviana U, Iwasaki Y：Meaning if life of relocated survivors after the 2010 Mt. Merapi eruptions. 18th EAFONS Abstract Book Oral Presentation, 75-76, 2015.
3. 伊藤尚子：在日外国人への防災・災害時支援の観点から考察する多文化共生。文化看護学会第7回学術集会抄録集, 9, 2015

< 2015年4月～12月 >

4. Iwasaki Y：Recovery-oriented nursing for people with mental illness. The first International Nursing Conference, Surabaya, 2015.
5. Maharjan S, Iwasaki Y：Family roles in caregiving of people with mental illness in Nepal. The second Asian Symposium on Healthcare without Borders. Health Care without Borders Official Proceedings, 10,2015.
6. 岩崎弥生：リハビリを促す看護。千葉県リハビリテーション研究会, 千葉市, 2015.
7. 川俣香織, 岩崎弥生：統合失調症者のきょうだいが行っているケア提供体験に関する研究。日本家族看護学会第22回学術集会プログラム・抄録集, 100, 2015.
8. 神藤猛：危機管理のリーダーと多機関の協働連携。日本オペレーションズリサーチ学会「安全安心強靱な社会とOR」研究部会, 東京, 2015.
9. Ito T, Noda Y：The Experiences of Foreign Victims at The Niigataken Chuetsu-oki Earthquake in 2007 and The Iwate-Miyagi Nairiku Earthquake in 2008. The 19th World Congress on Disaster and Emergency Medicine, Capetown, 2015.
10. Yanagibori R, Noji A, Suzuki T, Mochizuki Y, Tsujimura M, Sumitani D, Kanda K：：Relevant Factors in the Experiences of Difficulties with International Patients in Japanese Hospitals. International Nursing Conference. Seoul, 2015.
11. 野地有子, 望月由紀, 鈴木友子, 辻村真由子, 長谷川みゆき, 小嶋純, 菅田勝也：病院看護部からみた病院と看護の国際化にむけた現状調査(第1報)。第53回日本医療・病院管理学会学術総会演題集抄録, 103,2015.
12. 望月由紀, 野地有子, 鈴木友子, 辻村真由子, 長谷川みゆき, 小嶋純, 菅田勝也：病院看護部からみた病院と看護の国際化にむけた現状調査(第2報)～病院における通訳に焦点をあてて。第53回日本医療・病院管理学会学術総会演題集抄録, 103, 2015.
13. 鈴木友子, 野地有子, 近藤麻理, 辻村真由子, 望月由紀, 溝部昌子：看護学生の文化対応能力と影響要因に関する研究～opennessに着目したスケールを用いて～。第35回日看科会学術集会講演集, 84, 2015.

【単行書】

< 2015年4月～12月 >

14. 岩崎弥生, 渡邊博幸 (編) : 精神看護学①精神保健. メヂカルフレンド社, 2015.
15. 神藤 猛 : 災害医療のネットワークセントリックなシステムデザイン—国の防災・強靱化の中核的システム構築戦略. 地域デザイン学会編「安全・安心革新戦略: 地域リスクとレジリエンス」. 学文社, 100-123, 2015.

【総説・短報・実践報告・資料・その他】

< 2015年4月～12月 >

16. 神藤 猛 : 災害看護における傷病者の搬送順位に関する戦略的意思決定モデル. 千大看紀要, 37, 11-16, 2015.
17. 白井いづみ : 産婦の急変. その時助産師には何ができるのか, 何をすべきなのか. 分娩と麻酔, 97, 39-45, 2015.

病院看護システム管理学領域

【学会発表抄録】

< 2015年1～3月 >

1. Kawai N., Masaki H., Matsumoto K., Hayashi Y., Sakai S., Endo K., Teshima M., Nagae H. : Exploring elements of end-of-life care for the elderly with the aim of developing quality indicators : English literature review. 18th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS), Taipei, Taiwan, 2015.

< 2015年4～12月 >

2. 正木治恵, 河井伸子, 松本啓子, 桑田美代子, 吉岡佐知子, 西山みどり, 内野良子, 遠藤和子, 坂井さゆり, 林弥江, 長江弘子, 手島恵 : 高齢者の豊かな最晩年を創出する終末期ケア質指標の開発, 第20回日本老年看護学会学術集会講演集, 211, 2015.
3. 椎橋依子^{*1}, 手島恵, 飯田貴映子 : 仕事の意味を見出す職場づくり—承認の実践を通して—. 第19回日本看護管理学会学術集会抄録集, 194, 2015.
4. 佐藤朋子^{*1}, 手島恵, 飯田貴映子 : A病院グループにおける看護管理者として望まれる行動の検討—他組織との比較—. 第19回日本看護管理学会学術集会抄録集, 222, 2015.
5. 志田京子, 手島恵, 吉田千文, 飯田貴映子 : 中小規模病院の看護管理者に必要なとされている看護管理能力. 第19回日本看護管理学会学術集会抄録集, 289, 2015.
6. 三枝多可子^{*1}, 手島恵, 飯田貴映子 : 急性期病院において「育ち・育てること」を支援する教育体制強化の取組み—新人看護師定着促進に向けた教育担当者への関わり—. 第19回日本看護管理学会学術集会抄録集, 290, 2015.
7. 菱沼啓子^{*1}, 手島恵, 飯田貴映子 : 次世代管理職の育成—主体性を育み, 価値を創造する支援—. 第19回日本看護管理学会学術集会抄録集, 298, 2015.
8. 吉田千文, 手島恵, 志田京子, 高橋素子, 石神昌枝, 岡崎弘子 : 中小規模病院の看護職トップマネジャーの行う看護管理. 第19回日本看護管理学会学術集会抄録集, 301, 2015.
9. Masaki H., Kawai, N., Matsumoto K., Hayashi Y., Sakai S., Endo K., Teshima M., Nagae H. : Development of Quality Indicators for End-of-Life Care for the elderly in Japan : By Delphi technique. International Association of Gerontological and Geriatrics, 2015年10月19～22日, 2015.
10. 渡邊八重子^{*2}, クローズ幸子, 手島恵 : 組織の安全文化の醸成に関わる要因の研究—TeamSTEPPS導入による安全文化の変化—. 第35回日本看護科学学会学術集会講演集, 223, 2015.
11. 手島恵 : いのちの対話. 第27回日本生命倫理学会年次大会予稿集, 30, 2015.

*12015年3月看護システム管理学修了

*²2010年3月看護システム管理学修了

【報告書】

< 2015年1～3月 >

12. 手島恵：アウトリーチ（訪問）型看護管理能力支援モデルの開発に関する研究。平成26年度厚労科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）総括研究報告書，2015。

【単行書】

13. 手島恵監修：看護者の基本的責務2016年度版一定義・概念/基本法/倫理。日本看護協会出版会，2015。

【研究状況】

手島は、「グローバル時代に高度看護実践を支える看護管理教育のありかた」（科学研究費補助金基盤（C）代表者：手島恵）の調査について検討するとともに、最終年度である「アウトリーチ（訪問）型看護管理能力支援モデルの開発」（厚生労働科学研究費補助金 地域医療基盤開発推進研究事業 代表者：手島恵）において、昨年度の文献検討と全国調査をもとに作成した看護管理能力の支援モデルを用い、中小規模病院における介入と評価に手島と飯田は取り組んだ（5, 8, 12）。また、監修をおこなった看護者の基本的責務2016年度版を出版した（13）。また、手島は年次大会長として第27回日本生命倫理学会年次大会「いのちの対話」を開催した（11）。

飯田は、初年度となる「高齢者ケア施設における看護職の入職・定着・離職に関連する要因の概念化」（科学研究費助成事業 若手研究（B）代表者：飯田貴映子）に取り組んだ。

地域看護システム管理学領域

【原著】

< 2015年4～12月 >

1. 村本あき子，中村誉，杉田由加里，武見ゆかり，中村正和，林美美，真栄里仁，宮地元彦，横山徹爾，和田高士，津下一代：保健指導技術に関する自己評価結果についての考察。人間ドック，30(3)，623-631，2015。
2. 吉本照子，長江弘子，辻村真由子：大学教員と訪問看護ステーション看護師の協働による新卒訪問看護師の育成プログラムにおける合意形成の課題－文化的視点からの考察－。文化看護学会誌，7(1)，2-12，2015。

【学会発表抄録】

< 2015年4～12月 >

3. 古田将光*，吉本照子，杉田由加里：介護老人保健施設のケアマネジャーによる介護プラン立案支援の仕組み作り－施設ケアマネジメントシステムの構築に向けて－。第14回日本ケアマネジメント学会抄録集，165，2015。
*2015年3月修士課程修了
4. 谷口由紀子*，吉本照子，杉田由加里：重症心身障害児訪問看護の力量開発のための同行訪問を活用した人材育成。第20回在宅ケア学会抄録学術集会講演集，99，2015。
*2014年3月修士課程修了
5. 小宮山日登美*，吉本照子，杉田由加里：訪問看護事業所における時間外対応の仕組みの再構築一質の保証と新入職員の困難感の軽減に焦点を当てて－。第20回在宅ケア学会抄録学術集会講演集，112，2015。
*2015年9月修士課程修了
6. 黒木由美子*，吉本照子，杉田由加里：利用者主体のケアを組織的・継続的に提供するための訪問看

護のしくみづくり。第20回在宅ケア学会抄録学術集会講演集, 136, 2015.

*2015年3月修士課程修了

7. Sugita Yukari, Ishimaru Mina, Ide Narumi, Matsushita Mitsuko, Ishikawa Mai, Ogata Yasuko : Conditions to promote the continuous practice research for the public health nurses of the health center. The 6th international conference on community health nursing research, 2015.
8. Ishimaru Mina, Sugita Yukari, Ishikawa Mai : Facilitating factors of practice research for the improvement of public health nursing practice. The 6th international conference on community health nursing research, 2015.
9. Hisayo Yanagisawa, Teruko Yoshimoto, Yoko Shimizu, Kyoko Sugawara : Challenges concerning descriptions included in records written by public health nurses to improve the quality of their activities. The 6th international conference on community health nursing research, 2015.
10. 杉田由加里, 石丸美奈, 井出成美, 松下光子, 石川麻衣, 緒方泰子 : 保健師の業務研究への継続的取り組みを推進する保健所の体制. 日本地域看護学会第18回学術集会講演集, 176, 2015.
11. 飯野理恵, 石丸美奈, 時田礼子, 岩瀬靖子, 上田修代, 杉田由加里, 来栖千幸, 佐藤紀子, 宮崎美砂子 : デルファイ法を用いた予防活動の持続・発展に有用な地域看護技術項目の検討(その1) —第1回目及び第2回目の質問紙調査結果—. 日本地域看護学会第18回学術集会講演集, 126, 2015.
12. 水野智子, 杉田由加里, 津下一代 : 自治体における生活習慣病予防の保健指導実施者のスキル向上に向けた取り組み. 第74回日本公衆衛生学会総会抄録集, 287, 2015.
13. 杉田由加里, 水野智子, 横山徹爾 : 自治体における生活習慣病対策の保健事業に関するデータ分析・活用の体制づくり. 第74回日本公衆衛生学会総会抄録集, 258, 2015.
14. 高橋在也, 岩城典子, 長江弘子, 石丸美奈, 清水直美, 吉本照子 : 生き方の理解と支え合いのための場の模索—エンド・オブ・ライフを考える市民参加型プログラムの事例から—. 第27回日本生命倫理学会年次大会予稿集, 141, 2015.

【報告書】

< 2015年1～3月 >

15. 杉田由加里, 水野智子 : 自治体における生活習慣病対策の保健事業におけるデータ分析・活用の体制づくりに関する事例調査, 厚労科学研究費補助金「健診・医療・介護等データベースの活用による地区診断と保健事業の立案を含む生活習慣病対策事業を担う地域保健人材の育成に関する研究」(研究代表者: 横山徹爾), 平成26年度総括・分担研究報告書. 44-56, 2015.
16. 杉田由加里, 水野智子 : 自治体における生活習慣病予防の保健指導実施者のスキル向上に向けた取り組み調査, 厚労科学研究費補助金「標準的な健診・保健指導プログラム(改訂版)及び健康づくりのための身体活動基準2013に基づく保健事業の研修手法と評価に関する研究」(研究代表者: 津下一代), 平成26年度総括・分担研究報告書. 88-102, 2015.

【総説・短報・実践報告・資料・その他】

< 2015年1～3月 >

17. 杉田由加里, 山下留理子 : 特定保健指導の展開過程における課題と対応方法, 千葉大学大学院看護学研究科紀要. 37, 47-56, 2015.
18. 安藤智子, 吉本照子, 杉田由加里 : 日本の行政保健師が行う地域ケアシステムの評価に関する文献検討. 千葉科学大学紀要, 8, 123-130, 2015.

本領域では主に、地域ケアのシステム化の推進を担う行政保健師、地域包括支援センター長、訪問看護事業所管理者、外来看護管理者等の看護管理者および看護職者の考え方、役割行動および力量開発について研究教育を行っている。本年は、行政保健師の力量開発について、保健指導技術、可視化技術(9)、ケアシステム評価(18)の観点から報告した。訪問看護事業所、介護保険施設のケアの質改善及び人材育成(3, 6, 5, 4, 2)に関し、学内外の研究者・実践者、修士課程修了生、博士後期課程在籍者とともに報告した。

吉本は、「新人訪問看護師の実践力向上に向けた自己決定的学習を促す学習支援ツールの開発と検証」(平成27年度科学研究費補助金(基盤研究(B)), 研究代表者)に取り組み、実践者との協働による新人の学習支援プログラム開発に関する課題(2)について報告した。

杉田は、厚労科学研究費補助金の研究分担者として、自治体における生活習慣病対策の保健事業におけるデータ分析・活用の体制づくりに関する調査(13, 15)および、生活習慣病予防の保健指導実施者のスキル向上に向けた取り組みの調査(1, 12, 16)について、特定保健指導の展開過程における課題と対応方法(17)について報告した。そして、研究代表者として、行政保健師の実践の充実を目指した業務研究サポートモデルの開発(基盤研究(C))に取り組んでいる(7, 8, 10)。さらに分担研究者として、予防活動の持続・発展のための地域看護実践ガイドの開発に取り組んでいる(11)。

ケア施設看護システム管理学領域

【学会発表抄録】

< 2015年4～12月 >

1. 菊地悦子*, 酒井郁子, 黒河内仙奈: 高齢者長期ケア施設において日常倫理に基づくケアを確立する看護管理実践モデルの開発－看護管理実践行動の洗練と管理実践モデルの作成－. 日本老年看護学会第20回学術集会抄録集, 282, 2015.
*2014年3月博士課程修了
2. 大塚真理子, 池崎澄江, 山田響子, 酒井郁子, 長坂育代, 黒河内仙奈, 山本武志, 渡邊美和, 増島麻里子, 大塚知子, 眞嶋朋子: 大学病院の医師と看護師以外の多職種における専門職連携実践力の特徴－CICS29の比較から－. 第8回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会, 33, 2015.
3. 下井俊典, 大塚真理子, 酒井郁子, 春田淳志, 神山裕美, 岬上光代, 小林毅, 藤林慶子: IPE/IPWのための専門職連携コンピテンスを考える(第3回). 第8回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会, 13, 2015.
4. Tomoko Majima, Sumie Ikezaki, Ikuko Sakai, Ikuyo Nagasaka, Shuichi Yamamoto, Mariko Masujima, Kana Kurokochi: Association between communication, competency for interprofessional collaborative practice, and team performance in Japan. AMEE2015－An International Association for Medical Education, 504, 2015.
5. 渡邊美和, 増島麻里子, 眞嶋朋子, 池崎澄江, 黒河内仙奈, 大塚真理子, 山田響子, 長坂育代, 大塚知子, 酒井郁子: 大学病院の看護師長が認識している多職種連携実践上の課題. 千葉看第21回学術集会講演集, 37, 2015.
6. 大塚真理子, 酒井郁子, 藤沼康樹, 朝比奈真由美, 山田響子, 下井俊典, 小林毅, 岬上光代: 交流集会5 看護教育と専門職連携教育－他分野の専門職教育者との交流を通して－. 千葉看第21回学術集会講演集, 54, 2015.
7. 山田響子, 大塚真理子, 酒井郁子, 藤沼康樹, 黒河内仙奈, 池崎澄江, 眞嶋朋子: 亥鼻IPE Step2のチームづくりに必要なファシリテーターの知識とスキル－ファシリテーター事前研修の充実に向けて－. 千葉看第21回学術集会講演集, 41, 2015.
8. 酒井郁子, 池崎澄江, 長坂育代, 黒河内仙奈, 大塚真理子, 渡邊美和, 増島麻里子, 大塚知子, 眞嶋朋子: 大学病院における専門職連携実践に関する研究 第1報 看護師・医師の専門職連携実践自己評価の部署間比較. 第35回日看科会学術集会講演集, 707, 2015.
9. 長坂育代, 黒河内仙奈, 池崎澄江, 増島麻里子, 渡邊美和, 酒井郁子, 大塚真理子, 大塚知子, 眞嶋朋子: 大学病院における専門職連携実践に関する研究 第2報 看護師の専門職連携実践の評価と職務満足度との関連. 第35回日看科会学術集会講演集, 708, 2015.
10. 小松亮, 黒河内仙奈, 酒井郁子: 新卒看護師が入職1年以内に離職することによる病院の損失 3つのシミュレーションによる病院の損失. 千葉看第21回学術集会講演集, 34, 2015.
11. 黒河内仙奈, 酒井郁子, 松平裕佳, 住谷ゆかり, 山口多恵, 山崎千寿子, 菊地悦子: 交流集会1 長期ケア施設の看護管理における実践と研究. 千葉看第21回学術集会講演集, 52, 2015.

12. 黒河内仙奈, 酒井郁子: 回復期リハビリテーション病棟における看護サービスへの脳卒中患者満足度の洗練. 第35回日看科会学術集会講演集, 546, 2015.

【単行書】

< 2015年4～12月 >

13. 酒井郁子, 金城利雄 (編集): 看護学テキストシリーズNiCEリハビリテーション看護改訂第2版. 南江堂, 2015.
14. 酒井郁子: 第Ⅲ章 リハビリテーション看護の展開に必要な概念と理論, 2リハビリテーションを必要とする人との関係を構築するために. 酒井郁子, 金城利雄 (編集): 看護学テキストシリーズNiCEリハビリテーション看護改訂第2版. 南江堂, 65-78, 2015.
15. 黒河内仙奈: 第Ⅲ章 リハビリテーション看護の展開に必要な概念と理論, 3リハビリテーションを必要とする人への看護を展開するために, A. 動きやすい環境. 酒井郁子, 金城利雄 (編集): 看護学テキストシリーズNiCEリハビリテーション看護改訂第2版. 南江堂, 79-81, 2015.
16. 酒井郁子: 第Ⅶ章 リハビリテーション看護における倫理的諸問題. 酒井郁子, 金城利雄 (編集): 看護学テキストシリーズNiCEリハビリテーション看護改訂第2版, 南江堂, 291-296, 2015.
17. 酒井郁子, 金城利雄: 第Ⅷ章 リハビリテーション看護のシステム化と発展を目指して 3. リハビリテーション看護の現状と課題 B. 日本におけるリハビリテーション看護の現状と課題. 酒井郁子, 金城利雄 (編集): 看護学テキストシリーズNiCEリハビリテーション看護改訂第2版, 南江堂, 313-317, 2015.
18. 酒井郁子, 黒河内仙奈, 菊地悦子*, 山口多恵, 樋浦裕里, 山崎千寿子: 第1章リハビリテーション看護とは リハビリテーションナースとは. 和田玲 (編集): 疾患ごとの看護実践がみえる回復期リハビリテーション. 学研メディカル秀潤社, 25-38, 2015.
*2014年3月博士課程修了
19. 酒井郁子: 第4章管理者教育/研修について 2-1解説: 在宅・訪問看護・介護施設における看護職人材育成 高齢者ケア施設において 看護管理者に求められる能力とは. 公益社団法人 日本看護協会 (編集): 平成27年版 看護白書. 日本看護協会出版会, 187-193, 2015.
20. 酒井郁子: 第2章 12在宅におけるせん妄の予防と発症時のケア. 諏訪さゆり (監修): Q&Aと事例でわかる訪問看護 認知症訪問看護. 中央法規出版会, 174-175, 2015.

【総説・短報・実践報告・資料・その他】

< 2015年1～3月 >

21. 酒井郁子, 大塚真理子, 藤沼康樹, 山田響子, 宮古紀宏: 【IPEの達成とこれから 「地域で学ぶ」を中心に】 専門職連携コンピテンシーの確立 千葉大学亥鼻IPEの展開から, 看護教育, 56(2), 112-115, 2015.
22. 大塚真理子, 酒井郁子, 相馬仁, 下井俊典, 神山裕美, 小林毅, 春田淳志, 畔上光代, 藤林慶子: JAIPE IPE推進委員会の活動と展望. 保健医療福祉連携, 8(1), 27-29, 2015.

< 2015年4～12月 >

23. 酒井郁子: 専門職連携教育と看護教育 新しい酒は, 新しい革袋に盛れ. 週刊医学界新聞, 医学書院, 3135号, 2015.
24. 酒井郁子: 巻頭言 IPE的なIPE. 保健医療福祉連携, 8(2), 105, 2015.
25. 當山房子*, 酒井郁子, 黒河内仙奈: 認知症の人の暮らしを支える地域包括ケアシステムをめざして 認知症の人の暮らしを支える看護 ナレッジマネジメント拠点形成と地域への貢献. 老年精神医学雑誌, 26増刊II, 124, 2015.
*2012年3月修士課程修了
26. 當山房子*, 酒井郁子, 黒河内仙奈: 認知症の人の暮らしを支える地域包括ケアシステムをめざして 認知症の人の暮らしを支える看護 ナレッジマネジメント拠点形成と地域への貢献. 日本老年医学会雑誌, 52 Suppl, 26-27, 2015.

*2012年3月修士課程修了

27. 酒井郁子：【高齢者ケア施設における看護管理者に求められる能力】高齢者ケア施設において看護管理者に求められる能力とは. コミュニティケア, 17(6), 50-53, 2015.
 28. 菊地悦子*, 酒井 郁子：【大学院で学ぶ意味-新たな看護を創るために】博士修了の立場から 臨床での経験と研究, そして研究結果を実践で活用するための研究へ. 看護研究, 48(4), 314-317, 2015.
- *2014年3月博士課程修了

【講演・シンポジウム】

29. 酒井郁子：専門職連携教育研究センターの成り立ちとミッション. 千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センター開設記念シンポジウム報告集, 5-12, 2015. (講演2015.3.16)
30. 酒井郁子：リハビリテーション病棟で高齢者ケアの質を改善するための具体的方略. 日本リハビリテーション看護学会第27回学術大会抄録集, 34, 2015 (教育講演2015.11.20)
31. 酒井郁子：「高齢者の長期療養における看護管理者の役割について」. 全国看護師職能委員会Ⅱ, 25-43, 2015. (講演2015.8.3)
32. 佐藤紀子, 三上れつ, 大島弓子, 香春知永, 酒井郁子, 西村ユミ, 藤井徹也：理事会企画Ⅱ 研究計画書をブラッシュ・アップしようパートⅢ. 第25回日本看護学教育学会学術集会講演集, 62-63, 2015.

【研究状況】

ケア施設看護システム管理学では, 回復期リハビリテーション病棟や介護保険施設, 地域密着型居宅介護事業所等の長期ケア施設における看護・介護システム管理, 高齢脳卒中患者への看護, 高齢者の生活リズム調整, せん妄ケアに関する研究教育活動をおこなっている. 平成27年度は修士課程大学院生7名, 博士後期課程大学院生8名, 研究生2名となった.

酒井は, 科学研究費補助金 基盤研究 (A) (一般) 回復期リハビリテーション病棟における高齢者ケアEBP実装システムの開発 (課題番号 15H02585) において, 実践適用研究の実際と課題についての研究に取り組み, 情報収集およびコンサルテーションを目的に海外研修へ参加した. 専門職連携教育 (IPE) に関しては, 平成27年1月に看護学研究科附属専門職連携教育研究センター (IPERC) が開設し, センター長としてシンポジウムの開催・講演 (29), 学会発表 (2~9), および雑誌の執筆 (21~24) を行った. せん妄ケアに関するプロジェクトについては, テキストの執筆 (20) を行った. さらに, リハビリテーションに関する講演 (30), 書籍の編集 (13)・執筆 (14~18), 長期ケア施設の看護管理に関する講演 (31), 書籍 (19)・雑誌 (27) の執筆を行った.

黒河内は, 科学研究費 (若手研究(B)) 「回復期リハビリテーション病棟に勤務する看護師の職務満足度を高める看護管理実践の検討 (研究課題番号: 25862140)」に取り組んだ. また, リハビリテーションに関する書籍の執筆 (15, 18) および学会発表 (12) を行った.

ケア開発研究部

【原著】

< 2015年1月~3月 >

1. Lucia Gonzales, Anne Koci, Rose Mary Gee, Ariko Noji, Dale Glaser, Allison K Marsh, Kathy K Marsh, Amara Michella Altman, Nasser Al Salmi, Sulaiman Al Sabei. : Caring for women globally : Psychometric testing of two instruments translated into five languages for use in cardiovascular recovery. International Journal of Nursing Practice, 21 (Suppl. 1) 27-37. Journal of Nursing and Human Sciences, 2015
2. Janice Morse, Lauren Clark, Tracii Haynes, Ariko Noji : Providing cultural care behind the spotlight at Olympic Games, International Journal of Nursing Practice ,21(supple.1)45-51. Journal of Nursing and Human Sciences, 2015

< 2015年4月～12月 >

3. 河部房子, 黒田久美子, 小山田恭子, 上本野唱子, 池袋昌子, 西山正恵, 野地有子, 若杉歩, 赤沼智子: 看護系大学と病院実習のトップ管理者間の連携要素に関する研究 - 看護教育・実践連携評価ツールの開発に向けて -, 日本看護学教育学会誌, 2015年10月6日 (印刷中)
4. Yoshiko Miyawaki, Yasuko Shimizu, Kyoko Uchiumi, Kawai Asou, Naoko Murakado, Kumiko Kuroda, Harue Masaki, Natsuko Seto, Hidetoki Ishii: Reliability and Validity of a Shortened Version of an Instrument for Diabetes Self-Care Agency, Journal of Nursing Measurement, Volume 23, Number 2, 326-335, 2015

【特別講演】

< 2015年4月～12月 >

5. Ariko Noji, Nursing Faculty Development and Collaborative Activities between Universities, 10th International Nursing Conference, 2015年10月, Seoul, Korea.
6. 黒田久美子: 臨床で活かす看護師のコンサルテーション, 第16回富山大学看護学会学術集会, 2015年12月, 富山.

【シンポジウム】

< 2015年1月～3月 >

7. 野地有子, 第2回ANCC (Asian Nurses' Cultural Competence) 国際シンポジウム, 病院と看護の国際化に向けた文化対応能力の評価-国内病院調査の中間報告-, 第5回日本看護評価学会学術集会, 2015年3月, 東京.
8. 野地有子, Julia Puebla Fortir, 林久美子, Mary Jo Clark, 第2回ANCC (Asian Nurses' Cultural Competence) 国際シンポジウム, 「病院および看護の国際化について～米国CLASガイドラインから学ぶ～」, 第5回日本看護評価学会学術集会, 2015年3月, 東京.
9. 黒田久美子: セルフケアへの支援のあり方, 2014年度精神看護学セミナー「糖尿病を合併している精神疾患患者へのアプローチ セルフケアへの援助とは何かを再認識」, 2015年3月, 福島.

【学会発表抄録】

< 2015年1月～3月 >

一般演題

10. 溝部昌子, 赤沼智子, 野地有子: 看護における研究成果活用について - 測定尺度に関する文献的検討 -, 第5回日本看護評価学会学術集会講演抄録集, 33, 2015 3月, 東京.

< 2015年4月～12月 >

11. Gonzales, L., Koci, A., Gee, R. M., Noji, A., Glaser, D., Marsh, A., Marsh, K., Altman, A., Al Salmi, N., Al Sabei, S., Psychometric testing of instruments for use in women's cardiovascular recovery globally. (2015, July) Poster presented at the American Heart Association/American Stroke Association BCVS2015 Basic Cardiovascular Sciences Scientific Session, New Orleans, LA, USA.
12. 大島紀子, 野地有子: 看護職による長時間労働面接の実施について 第3報 - A社本社地区における看護基準を取り入れた取り組み -, 第31回日本健康科学学会, 2015年8月.
13. Ryoko Yanagibori, Ariko Noji, Tomoko Suzuki, Yuki Mochiduki, Mayuko Tsujimura, Daisuke Sumitani, Katsuya Kanda: Relevant Factors in the Experiences of Difficulties with International Patients in Japanese Hospitals, 10th International Nursing Conference, 2015年10月, Seoul, Korea.
14. Mayumi Tanii, Ariko Noji: Theater Nurses and Their Roles as Members of the Team Medical Care in the Perioperative Period - From Literature Reviews -, 10th International Nursing Conference, 2015年10月, Seoul, Korea.
15. Noriko Oshima, Ariko Noji: Interviews Concerning Long Working Hours at Company Conducted

by Occupational Health Nurse – Using the Roper - Logan Model of Nursing –, 10th International Nursing Conference, 2015年10月, Seoul, Korea.

16. 野地有子, 望月由紀, 鈴木友子, 辻村真由子, 長谷川みゆき, 小嶋純, 菅田勝也: 病院看護部から見た病院と看護の国際化に向けた現状調査(第1報), 第53回日本医療・病院管理学会学術集会, 2015年11月, 福岡.
17. 望月由紀, 野地有子, 鈴木友子, 辻村真由子, 長谷川みゆき, 小嶋純, 菅田勝也: 病院看護部から見た病院と看護の国際化に向けた現状調査(第2報)～病院における通訳に焦点を当てて～, 第53回日本医療・病院管理学会学術集会, 2015年11月, 福岡.
18. Gonzales, L., Koci, A., Gee, R.M, Noji, A. (2015, October) Family living and the roles of mother, worker and partner. Poster presented at the Council for the Advancement of Nursing Science 2015 Special Topics Conference : Emerging Areas of Family Health Research Across the Lifespan, Washington, DC, USA.
19. 鈴木友子, 野地有子, 近藤麻理, 辻村真由子, 望月由紀, 溝部昌子: 看護学生の文化対応能力と影響要因に関する研究～opennessに着目したスケールを用いて～, 第35回日本看護科学学会学術集会, 2015年12月, 広島.
20. 瀬戸奈津子, 飯田直子, 大原裕子, 金子佳世, 黒田久美子, 他: 外来療養指導の実態を共有しよう! 糖尿病患者さんのニーズに応える療養指導とは, 第20回日本糖尿病教育・看護学会学術集会抄録集, 84, 2015年9月, 高松.
21. 森小律恵, 岡崎優子, 古山景子, 中山法子, 米田昭子, 黒田久美子, 福井トシ子, 数間恵子: 特定行為研修提案へのインフォメーションイクスチェンジ, 第20回日本糖尿病教育・看護学会学術集会抄録集, 85, 2015年9月, 高松.
22. 林由紀, 菊池裕子, 小松平やえ子, 中野和子, 工藤真由美, 吉川真喜, 高橋真紀子, 山下希美, 福島裕子, 渡辺幸枝, 相墨生恵, 井上都之, 小澤尚子, 黒田久美子, 和住淑子, 河部房子: 看護基礎教育における臨地実習指導の教育力その1 実習指導における教員の教育力の構成要素, 第35回日本看護科学学会学術集会講演集, 254, 2015年12月, 広島
23. 福島裕子, 工藤真由美, 渡辺幸枝, 相墨生恵, 井上都之, 小澤尚子, 林由紀, 菊池裕子, 小松平やえ子, 中野和子, 吉川真喜, 高橋真紀子, 山下希美, 黒田久美子, 和住淑子, 河部房子: 看護基礎教育における臨地実習指導の教育力その2 臨床で学生指導を担う看護師の教育力の構成要素, 第35回日本看護科学学会学術集会講演集, 254, 2015年12月, 広島

【報告書】

< 2015年1月～3月 >

24. 平成26年度 看護学教育ワークショップ報告書, 看護学教育ワークショップ実行委員会, 2015年2月
25. 文部科学省特別経費(教育関係共同実施分) 看護学教育におけるFDマザーマップの開発と大学間共同利用の促進プロジェクト活動・成果報告書, 2011年度～2012年度, 看護学教育研究共同利用拠点, 千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター, 平成25年3月

【単行書】

< 2015年4月～12月 >

26. 野地有子: 成人保健活動論, 金川克子(編), 最新保健学講座3公衆衛生看護活動論1, ライフステージの特性と保健活動, メヂカルフレンド社, 102-205, 2015
27. 赤沼智子: 在宅看護技術, 在宅リハビリテーション, 看護実践のための根拠がわかる在宅看護技術, メヂカルフレンド社, 153-158, 2015.

【総説・短報・実践報告・資料・その他】

< 2015年4月～12月 >

28. [シンポジウム] 野地有子: 病院および看護の国際化について～米国CLASガイドラインから学ぶ～,

第5回日本看護評価学会学会誌, vol5(2), p73-74, 2015.

29. [シンポジウム] 野地有子：病院と看護の国際化に向けた文化対応能力の評価－国内病院調査の中間報告－日本看護評価学会誌vol5, No.2, p74-78, 2015.
30. [公開講座] 黒田久美子, 福田峰子, 内田明子, 飯野 理恵, 和住淑子：平成26年度千葉大学看護学部公開講座「災害における看護のはたらき」(専門職向け講座)：今こそ、災害に備えた看護の力の発揮：過去から学び未来に備える, 千葉大学大学院看護学研究科紀要(37), 85-87, 2015.

〔研究状況〕

本研究部の継続研究課題は、看護学教育研究共同利用拠点としてセンター事業のプロジェクト研究に取り組んでいる。協定校の米国サンディエゴ大学と連携し、看護学教育におけるFDについて、継続的に学内・国内・国際的研究の拠点づくりに行っている(3, 24, 25)。

野地教授は、千葉大学研究支援プログラム(科研費申請支援)を受けた後、「アジア圏における看護職の文化的能力の評価と能力開発・臨床応用に関する国際比較研究」(文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(A) 研究代表者 野地有子)を継続している(2, 7, 8, 10, 13, 16, 17, 19, 28, 29)。また、看護学教育ワークショップにおいては、実行委員長として、米国から本邦初来日となるBarnsteiner博士を招聘しQSENおよび看護教育の質保証について検討した(24, 25)。FDマザーマップのコンテンツ開発(国際)を担当し、10月には、第10回International Nursing Conference(韓国)の招聘講演を行い看護学教育研究共同利用拠点としての国際発信を推進した(5)。また、グローバル海外共同研究を継続している(1, 11, 18)。

黒田准教授は、FDマザーマップのコンテンツ開発では、「学生への対応に困るシリーズ」、「すっきり納得カリキュラム」、「初めての実習指導とその支援」の開発を行い、一部DVD化した。プロジェクト研究では、新人看護師教育担当者自己評価ツール、自施設完成型新人看護師教育担当者育成プログラムの開発・検証を行い、論文化の段階である。また、「教育－研究－実践をつなぐ組織変革型看護職育成支援プログラムの開発プロジェクト」から発展させた課題解決プロジェクト型共同研究「看護系大学と臨地実習施設が共同で取り組む組織変革に関する研究」、「看護師長が取り組む組織変革プロジェクトを支援する研修プログラムの精錬に関する研究」を継続実施している。個別研究では、「認知機能低下が生じた高齢インスリン療法患者・家族への援助指針の開発」(文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C) 研究代表者 黒田久美子)を継続中である。

赤沼講師は、個人の研究において在宅ケア領域の教育に関する研究を行い「訪問看護における臨床と教育機関の連携融合教育-学習プログラムの開発」(基盤研究(C))の研究分担者として実施した。

政策・教育開発研究部

〔学会発表抄録〕

<2015年4月～12月>

1. Shu Chun Chien, Toshie Yamamoto, Takeshi Matsumoto, Yoshiko Wazumi, Fusako Kawabe, Akiko Nagata, : Relationships Between Ryodoraku Measurements and Lifestyle, Based on the Concepts of Oriental Medicine. The 43st Biennial Convention of Sigma Theta Tau International Honor Society of Nursing. 7 November 2015, Las Vegas, Nevada USA.
2. Toshie Yamamoto, Akiko Nagata, Shu Chun Chien, Fusako Kawabe : Main Factors for Creating Nursing Curriculum Including Oriental Medicine and Challenges of Its Implementation : A Case Study of a Taiwan University. The 43st Biennial Convention of Sigma Theta Tau International Honor Society of Nursing. 9 November 2015, Las Vegas, Nevada USA.
3. Fusako Kawabe, Toshie Yamamoto, Shu Chun Chien, Akiko Nagata : Main Factors for Creating Nursing Curriculum Including Oriental Medicine and Challenges of Its Implementation : A Case Study of a Japanese University. The 43st Biennial Convention of Sigma Theta Tau International Honor Society of Nursing. 9 November 2015, Las Vegas, Nevada USA.

4. 奥朋子, 和住淑子, 山本利江, 阿部礼子, 高梨希子, 鮎澤ひとみ, 金澤薫: 大学病院の総合案内における看護職固有の機能に関する研究. 千葉看護学会第21回学術集会講演集, 32, 2015.
5. 高梨奈保子, 佐藤千尋, 和住淑子: 集中治療室に入室する患者の便秘に関するICU看護師とCCU看護師の意識と行動の相違について. 第46回日本看護学会-急性期看護-学術集会抄録集, 399, 2015.
6. 根本菜穂子, 田口奈美, 和住淑子: 三次救急病院外傷治療科病棟スタッフナースの実態に即した「ベッドサイド暴力予防マニュアル」の作成. 日本救急看護学会雑誌, 17 (3), 234, 2015.
7. 林由紀, 菊池裕子, 小松平やえ子, 中野和子, 工藤真由美, 吉川真喜, 高橋真紀子, 山下希美, 福島裕子, 渡辺幸枝, 相墨生恵, 井上都之, 小澤尚子, 黒田久美子, 和住淑子, 河部房子: 看護基礎教育における臨地実習指導の教育力 その1 実習指導における教員の教育力の構成要素. 第35回日本看護科学学会学術集会講演集, 254, 2015.
8. 福島裕子, 渡辺幸枝, 相墨生恵, 井上都之, 小澤尚子, 林由紀, 菊池裕子, 小松平やえ子, 中野和子, 工藤真由美, 吉川真喜, 高橋真紀子, 山下希美, 黒田久美子, 和住淑子, 河部房子: 看護基礎教育における臨地実習指導の教育力 その2 臨床で学生指導を担う看護師の教育力の構成要素. 第35回日本看護科学学会学術集会講演集, 254, 2015.

〔研究状況〕

政策・教育開発研究部では、看護職者の役割の拡大や看護職者に寄せられる社会的ニーズにより効果的に応えるための政策研究や、看護基礎教育と連動させた看護職者の生涯にわたる教育・人材・キャリア開発のための研究を行っている。

平成26年度は、和住が研究代表者を務める科学研究費補助金（基盤研究（C））「F. Nightingaleの業績を現代に活かすための‘類比’の方法論に関する研究」の最終年度にあたり、これまでの研究成果のまとめを行った。さらに、和住は、平成27年度より、自身が研究代表者を務める科学研究費補助金（基盤研究（B））「看護職の生涯にわたるキャリア発達を支援する体系的研修プログラムの構築」に着手した。

この他、和住・銭は、看護実践研究指導センター共同研究員らとともに、課題解決プロジェクト型共同研究「保健医療福祉施設における看護管理者が取り組む組織変革に関する研究」「看護系大学と臨地実習施設が協働で取り組む組織変革に関する研究」に取り組んでいる。さらに、和住は、看護実践研究指導センター共同研究員らとともに、プロジェクト研究として「新人看護師教育担当者育成プログラムの精練」「看護部長が取り組む組織変革プロジェクトを支援する研修プログラムの精練に関する研究」に取り組んでいる。特に、プロジェクト研究「新人看護師教育担当者育成プログラムの精練」については、看護職能団体からの要請を受け、これまでの研究成果を実地応用し、共同研究員らとともに「新人看護職員研修責任者研修」を展開した。

また、和住は、計5看護系大学の要請を受け、看護実践研究指導センターが特別経費により実施している「看護学教育におけるFDマザーマップの開発と大学間共同活用の促進」プロジェクトにおいて開発した「看護学教育におけるFDマザーマップ」を活用したFD支援を展開した。

この他、和住は、現場の看護師らと共に、看護実践上の課題を解明し解決するための看護実践研究を重ねている（4～8）。

銭は、研究代表者として、平成25年度より科学研究費補助金（基盤研究（C））「看護学生の「生活パターンと自覚症状の関係チャート」及び生活改善プロトコルの開発」を継続しており、今年度は3年目になる。将来、人々の個別性を大切にしながら生活支援をする重要な人材であると思われる看護学生を対象とした詳細な生活パターンと健康状態の関係チャートと自覚症状を改善する生活支持体制の開発に取り組み、その中間成果を発表した(1)。

この他、研究分担者とともに、台湾にある中国医薬大学及び日本国内九州にある大学において、東洋医学もしくは中医学についての教育の実体調査を行い、その結果を国際学会で発表した（2, 3）。

今村は、引き続き日米高齢者のスピリチュアリティに関する研究を進める一方、昨年度から開始した「我が国の国際保健・看護コンピテンシー教育に関する調査研究」（文部科学研究費助成事業【基盤研究C】研究代表者今村恵美子）に取り組んだ。2年目の今年度は、昨年度開発した日本語版質問票を用いて全国248校の看護系大学の学部長・学科長を対象にウェブ調査を実施し、現在データを収集している。

専門職連携教育研究センター

〔原著〕

< 2015年4～12月 >

1. Tominaga T, Matsushima M, Nagata T, Moriya A, Watanabe T, Nakano Y, Fujinuma Y : Psychological impact of lifestyle-related disease disclosure at general checkup : a prospective cohort study. BMC family practice, 16 (1), 60, 2015.

〔学会発表抄録〕

< 2015年4～12月 >

2. 大塚真理子：専門職連携教育が目指している高齢者ケアを担う専門職の姿－看護職が加わるチームでは－. 第29回日本老年学会総会合同大会抄録集, 16, 2015.
3. 大塚真理子：地域で働く看護職が有するプライマリ・ケアの協調性. 第6回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会抄録集, 164, 2015.
4. 國澤尚子, 大塚真理子, 丸山優, 畔上光代, 須賀夏子, 山岸紀子：IPWコンピテンシー尺度開発（4）対象者の変化の測定. 第8回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会, 51, 2015.
5. 木戸宜子, 鶴岡浩樹, 畔上光代, 大塚真理子：認知症高齢者の長期療養を支えるIPWに向けた取り組みと課題－地域支援関係者への聞き取り調査から. 第8回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会, 52, 2015.
6. 大塚真理子, 池崎澄江, 山田響子, 酒井郁子, 長坂育代, 黒河内仙奈, 山本武志, 渡邊美和, 増島麻里子, 大塚知子, 眞嶋朋子：大学病院の医師と看護師以外の多職種における専門職連携実践力の特徴－CICS29の比較から. 第8回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会, 33, 2015.
7. 渡邊美和, 増島麻里子, 眞嶋朋子, 池崎澄江, 黒河内仙奈, 大塚真理子, 山田響子, 長坂育代, 大塚知子, 酒井郁子：大学病院の看護師長が認識している多職種連携実践上の課題. 千葉看護学会第21回学術集会講演集, 37, 2015.
8. 酒井郁子, 池崎澄江, 長坂育代, 黒河内仙奈, 大塚真理子, 渡邊美和, 増島麻里子, 大塚知子, 眞嶋朋子：大学病院における専門職連携実践に関する研究 第1報 看護師・医師の専門職連携実践自己評価の部署間比較. 第35回日本看護科学学会学術集会講演集, 707, 2015.
9. 長坂育代, 黒河内仙奈, 池崎澄江, 増島麻里子, 渡邊美和, 酒井郁子, 大塚真理子, 大塚知子, 眞嶋朋子：大学病院における専門職連携実践に関する研究 第2報 看護師の専門職連携実践の評価と職務満足度との関連. 第35回日本看護科学学会学術集会講演集, 708, 2015.
10. 今野あかね, 大塚真理子：地域包括支援センター看護職が行った孤立死に関わった地域住民への支援. 千葉看護学会第21回学術集会講演集, 48, 2015.
11. 柴崎智美, 米岡裕美, 高橋幸子, 宮崎孝, 森茂久, 椎橋実智男, 田口孝行, 細田治, 勝木祐仁, 大塚真理子, 荒木信夫, 別所正美：地域基盤型専門職連携教育の社会医学的な意義. 第47回日本医学教育学会大会予稿集, 142, 2015.
12. 下井俊典, 大塚真理子, 酒井郁子, 春田淳志, 神山裕美, 畔上光代, 小林毅, 藤林慶子：IPE/IPWのための専門職連携コンピテンスを考える（第3回）. 第8回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会, 13, 2015.
13. 大塚真理子, 酒井郁子, 藤沼康樹, 朝比奈真由美, 山田響子, 下井俊典, 小林毅, 畔上光代：看護教育と専門職連携教育－他分野の専門職教育者との交流を通して－. 千葉看護学会第21回学術集会講演集, 54, 2015.
14. 藤沼康樹：日本プライマリ・ケア連合学会家庭医療専門医認定試験の現状と課題. 第6回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会抄録集, 127, 2015.
15. 藤沼康樹：総合診療医のコンピテンシーに基づく生涯学習～学習ポートフォリオに挑戦！. 第6回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会抄録集, 168, 2015.
16. 渡邊隆将, 松島雅人, 藤沼康樹, 阿部佳子, 稲田美紀, 菅野哲也, 喜瀬守人, 今藤誠俊, 高橋 慶, 富永智一, 西村 真紀, 平山陽子, 増山由紀子, 村山慎一, 安来志保：研究中間報告第2報：

- EMPOWER-Japan Study (Elderly Mortality Patients Observed Within the Existing Residence). 第6回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会抄録集, 281, 2015.
17. 増山由紀子, 清田実穂, 喜瀬守人, 藤沼康樹: 家庭医療後期研修における Case-based Discussion (CbD) 導入の経験. 第6回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会抄録集, 359, 2015.
 18. 田中公孝, 渡邊隆将, 藤沼康樹: 家庭医療後期研修における e ポートフォリオの実践報告. 第6回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会抄録集, 360, 2015.
 19. 清田実穂, 増山由紀子, 喜瀬守人, 西村真紀, 藤沼康樹: リーダーシップ・トレーニング・フェロウシップ・オンサイト (Leadership Training Fellowship Onsite: LTF-onsite) の試み. 第6回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会抄録集, 364, 2015.
 20. 岡崎寛子, 小泉美都枝, 前里美和子, 河合由紀, 鈴木比有万, 鈴木佳奈子, 喜瀬守人, 藤沼康樹, 印牧義英, 中島康雄, 福田譲: 乳癌検診受診率向上に向けて 家庭医との知識共有がもたらす可能性. 日本乳癌検診学会誌24 (3), 506, 2015.
 21. 大西弘高, 藤沼康樹, 高柳亮: 家庭医療専門医認定におけるポートフォリオ評価の信頼性. 医学教育46 (Suppl), 176, 2015.
 22. 山田響子: 「市川てらこや」の創設を事例とした, 地域人材と大学生の協働利点と課題の検討. 日本教育社会学会第67回大会発表要旨録集, 58-59, 2015.
 23. 山田響子, 大塚真理子, 酒井郁子, 藤沼康樹, 黒河内仙奈, 池崎澄江, 眞嶋朋子: 亥鼻IPE Step2 のチームづくりに必要なファシリテーターの知識とスキル —ファシリテーター事前研修の充実に向けて—. 千葉看護学会第21回学術集会講演集, 41, 2015.

〔報告書〕

なし

〔単行書〕

< 2015 年 1 ~ 3 月 >

24. 藤沼康樹 (編集): 新総合診療医学. 家庭医療学編 (第2版), カイ書林, 2015.
25. 藤沼康樹: Introduction: 家庭医・家庭医療を学ぶ若き医療者のために. 藤沼康樹 (編集) 新総合診療医学, 家庭医療学編 (第2版), カイ書林, 2015.
26. 藤沼康樹: II-3 ケアの継続性. 藤沼康樹 (編集) 新総合診療医学, 家庭医療学編 (第2版), カイ書林, 2015.
27. 藤沼康樹: II-4 生物心理社会アプローチ. 藤沼康樹 (編集) 新総合診療医学, 家庭医療学編 (第2版), カイ書林, 2015.
28. 藤沼康樹: II-5 患者中心の医療の方法 (Patient centered clinical method). 藤沼康樹 (編集) 新総合診療医学, 家庭医療学編 (第2版), カイ書林, 2015.
29. 藤沼康樹, 森永大輔: II-6 家庭医療の枠組みとしてのThe Clinical Hand. 藤沼康樹 (編集) 新総合診療医学, 家庭医療学編 (第2版), カイ書林, 2015.
30. 藤沼康樹: II-10 複雑な臨床問題へのアプローチ. 藤沼康樹 (編集) 新総合診療医学, 家庭医療学編 (第2版), カイ書林, 2015.
31. 藤沼康樹: VIII-2 地域基盤型医学教育の実践-診療所でどう教えるか指導医からの疑問に答える. 藤沼康樹 (編集) 新総合診療医学, 家庭医療学編 (第2版), カイ書林, 2015.
32. 藤沼康樹: VIII-3 家庭医の生涯学習. 藤沼康樹 (編集) 新総合診療医学: 家庭医療学編 (第2版), カイ書林, 2015.

< 2015 年 4 ~ 12 月 >

33. 大塚真理子: 専門職の連携協働による家族支援, 矢吹知之編: 認知症の人の家族支援 介護支援に携わる人へ, 134-153, ワールドプランニング社, 2015.
34. 大塚真理子: リハビリテーション看護に必要なチームアプローチ. 酒井郁子, 金城利雄編: リハビリテーション看護 改訂第2版, 12-19, 南江堂, 2015.

35. 大塚真理子：高齢者の生活と家族，高齢者が生活する場．堀内ふき，大淵律子，諏訪さゆり編：高齢者の健康と障害①，62-79，MCメディカ出版，2015.
36. 藤沼康樹（編集）：大都市の総合診療－ジェネラリスト教育コンソーシアム8．カイ書林，2015.

【総説・短報・実践報告・資料・その他】

< 2015年1～3月 >

37. 酒井郁子，大塚真理子，藤沼康樹，山田響子，宮古紀宏*：専門職連携コンピテンシーの確立 千葉大学亥鼻IPEの展開から．看護教育56 (2)，112-115，2015.
*2015年8月まで本研究科教員
38. 下井俊典，大塚真理子，酒井郁子，春田淳志，相馬仁，神山裕美，畔上光代：ワールドカフェ IPE/IPWのための専門職連携コンピテンシーを考える．保健医療福祉連携，8 (1)，88-89，2015.
39. 藤沼康樹：Dr. 藤沼康樹のすべらない技，レジデントノート16 (16)．2973-2980，2015.
40. 藤沼康樹：ブルーボックス 理系のためのクラウド知的生産術 メール処理から論文執筆まで（書評）．日本プライマリ・ケア連合学会誌38 (2)，176-176，2015.
41. 山田響子：世界の現場で見えてきたこと - フィールドワーカーが見た学校保健 第6回 フィリピンから学ぶ Dengue 熱予防教育．健2月号，6-7，2015.

< 2015年4～12月 >

42. 大塚真理子：本邦における専門職連携教育（IPE）の研究動向と研究機関の設置，医療ジャーナル，51 (12)，87-93，2015.
43. 藤沼康樹：プライマリ・ケアにおけるマルチモビディティ（multimorbidity）の意味．総合診療25 (12)，13-16，2015.
44. 藤沼康樹：超高齢社会におけるプライマリ・ケア医の心身医学的課題 認知症や経済問題などが絡む複雑困難事例への対応と臨床教育/臨床研究．心身医学55 (9)，1025-1033，2015.
45. 藤沼康樹：研修医の育て方@診療所：ヤブ化しないための診療所教育．治療97 (8)，2015.
46. 藤沼康樹：日本の総合医療はどうあるべきか－新たな総合診療専門医制度の発足を迎えて 米国の家庭医療専門医制度から学ぶもの．カレントセラピー33 (7)，713-717，2015.
47. 岡山雅信，藤沼康樹：日本の地域医療教育イノベーション．ジェネラリスト教育コンソーシアム7，1-16，2015.
48. 藤沼康樹：高齢者エマージェンシープライマリ・ケア医のためのスキルアップ大作戦 高齢者救急『困る前のその一手』不要な救急受診&入院を防げるか？．総合診療25 (4)，380-384，2015.
49. 藤沼康樹，吉田伸：「家庭医」ってなんだ？．週刊医学界新聞，第3153号，2015．年12月7日
50. 藤沼康樹：テイラー先生のクリニカル・パール1「診断にいたる道筋とその道標」（書評）．日本プライマリ・ケア連合学会誌38 (3)，290-291，2015.
51. 藤沼康樹：母乳育児支援スタンダード第2版（書評）．週刊医学界新聞，第3150号，2015.

エンドオブライフケア看護学

〔原著論文〕

< 2015年4月～12月 >

1. 高橋在也：民主主義の発生源としての「政治的徳」—ダグラス・ラミス『ラディカル・デモクラシー』から見えるもの—。総合人間学, 9, 151-162, 2015.
2. 吉本照子, 長江弘子, 辻村真由子：大学教員と訪問看護ステーション看護師の協働による新卒訪問看護師の育成プログラムにおける合意形成の課題—文化的視点からの考察。文化看護学会誌, 7(1), 2-12, 2015.

〔学会発表抄録〕

< 2015年1月～3月 >

3. Nobuko KAWAI, Harue MASAKI, Keiko MATSUMOTO, Yasue HAYASHI, Sayuri SAKAI, Kazuko ENDO, Megumi TESHIMA, Hiroko NAGAE : Exploring elements of end-of-life care for the elderly with the aim of developing quality indicators : English literature review, 18th East Asian Forum of Nursing Scholars(EAFONS) , 2015.

< 2015年4月～12月 >

4. Hiroko NAGAE, Noriko IWAKI, Yoko KATAYAMA, Masako SAKAI : The Training Evaluations of the End-of Life Care Facilitators (EOLF) Educational Program for Nurses that Practice Advance Care Planning (ACP) in Japan. 14th World Congress of the European Association for Palliative Care, 94, 2015.
5. Harue MASAKI, Nobuko KAWAI, Keiko MATSUMOTO, Yasue HAYASHI, Sayuri SAKAI, Kazuko ENDO, Megumi TESHIMA, Hiroko NAGAE : Development of Quality Indicators for End-of-Life Care for the elderly in Japan : By Delphi technique. International Association of Gerontological and Geriatrics, 2015.
6. 高橋在也, 七星純子：なぜ「共感」という言葉は多用されるようになったのか—新聞言説および最近の学術論文の言説から。総合人間学会第10回研究大会抄録集, 24, 2015.
7. 池崎澄江, 増島麻里子, 長江弘子, 岩城典子, 谷本真理子, 櫻井智穂子, 和泉成子, 斉藤俊弘, 田村尚亮：慢性疾患（非がん）を持つ高齢者におけるエンド・オブ・ライフケアと事前指示書に関する認識。日本老年看護学会第20回学術集会抄録集, 2015.
8. 正木治恵, 河井伸子, 松本啓子, 桑田美代子, 吉岡佐知子, 西山みどり, 内野良子, 遠藤和子, 坂井さゆり, 林弥江, 長江弘子, 手島恵：高齢者の豊かな最晩年を創出する終末期ケア質指標の開発。第20回日本老年看護学会学術集会講演集, 211, 2015.
9. 長江弘子, 片山陽子, 酒井昌子, 岩城典子, 齋藤信也：訪問看護師を対象としたEOLファシリテータ養成プログラムの開発—研修受講直後のアンケート調査による影響評価—。第20回日本在宅ケア学会学術集会講演集, 176, 2015.
10. 酒井昌子, 片山陽子, 岩城典子, 蒔田麻友子, 長江弘子：エンド・オブ・ライフケア実践における看護師の意思決定支援の現状と課題（第1報）神経疾患患者の意思決定支援に焦点をあてて。第20回日本在宅ケア学会学術集会講演集, 180, 2015.
11. 岩城典子, 酒井昌子, 片山陽子, 蒔田麻友子, 長江弘子：エンド・オブ・ライフケア実践における看護師の意思決定支援の現状と課題（第2報）認知症患者の意思決定支援に焦点をあてて。第20回日本在宅ケア学会学術集会講演集, 181, 2015.
12. 高橋在也, 岩城典子, 長江弘子, 石丸美奈, 清水直美, 吉本照子：生き方の理解と支え合いのための場の模索—エンド・オブ・ライフを考える市民参加型プログラムの事例から—。第27回日本生命倫理学会年次大会予稿集, 141, 2015.
13. 乗越千枝, 谷垣静子, 小林裕美, 長江弘子：看護基礎教育における生活と医療を統合する継続看護を学ぶ実習の学習効果。第35回日本看護科学学会学術集会講演集, 413, 2015.

14. 長江弘子, 岩城典子, 片山陽子, 酒井昌子: 患者・家族を尊重した意思表示支援プロセスを促進する EOLファシリテータ教育プログラムの試み. 第35回日本看護科学学会学術集会講演集, 432, 2015.

〔単行書〕

< 2015年4月～12月 >

15. 長江弘子 (編集): エンド・オブ・ライフと在宅ケア, 株式会社ワールドプランニング, 2015.

〔総説・短報・実践報告・資料・その他〕

< 2015年4月～12月 >

16. 長江弘子: 自分らしく生きることを支えるエンド・オブ・ライフケア(解説). 日本腎不全看護学会誌, 17(1), 10-15, 2015.
17. 長江弘子, 岩城典子: 現場で活用できる意思決定支援のわざ, さまざまな意思決定支援の場面 面会に来ない家族の意見をどうするか? (解説/特集). 緩和ケア, 25(3), 192-196, 2015.
18. 高橋在也: 越境と再統合－現代社会における子どもの問題をめぐる四報告からの示唆－. 総合人間学, 9, 163-167, 2015.

〔研究状況〕

本領域では, 医療専門職に対しエンド・オブ・ライフケアの実践力を担保するための教育プログラムの開発と, 市民に対してはエンド・オブ・ライフケアに関わる対話促進のための教育プログラムの開発を企画委員に市民も参加し行っている. 各教育プログラムの研究成果 (2, 4, 7, 9) を発表し, 日本在宅ケア学会と日本生命倫理学会では交流集会を開催した. 大学教育に関しては, これまでの教養科目に加えて地域コア (地域と暮らし) 「生活文化とエンド・オブ・ライフケア」を開講した.

2015年度は本領域の最終事業年度となるため, これらの教育プログラム開発と研究活動をさらに継続し発展させるために, 特定非営利活動法人Japan Academy of Integrated Careを設立した.

長江は文部科学省科学研究費補助金 (基盤研究(A), 研究代表者) 「市民と専門職で協働する日本型対話促進ACP介入モデルの構築とエビデンスの確立」の研究班を立ち上げ, その第一段階として日本型の地域で行うACPの概念を再定義する概念開発に取り組んだ. また, 文部科学省科学研究費補助金 (挑戦的萌芽, 研究代表者) 「豊かな人生を共に生き, 共に年を重ねる地域文化の創出」においては, 看護師を対象とした「EOLファシリテータの育成プログラム」を実施し, 評価データを収集した. さらに, 千葉県看護協会と千葉大学との共同で「新卒・新任訪問看護師育成プログラムの開発」に継続して参画している.

高橋, 岩城は平成25年度より開始した千葉市生涯学習センターとの共催で市民講座「語り合おう! エンド・オブ・ライフ!」を企画推進の中核を担い継続して実施した. 本年度3回目の講座も, 昨年 of 講座に参加した市民を交え企画し, より市民のニーズにあった参加体験型のプログラムを考案した. その結果と意義を第27回日本生命倫理学会で発表した (11).

認定看護師教育課程 (乳がん看護分野)

〔原著〕

< 2015年1～3月 >

1. 増島麻里子, 佐藤まゆみ, 岡本明美, 泰圓澄洋子, 吉田千文, 阿部恭子, 長坂育代, 土屋雅子, 渡邊美和, 楠潤子: 乳がん術後患者のためのサポートグループプログラム「ほっとカフェ」の効果 プログラム構成に着眼した参加者の体験分析. 千葉看会誌, 20 (2), 41-49, 2015.

〔学会発表抄録〕

< 2015年1～3月 >

2. 佐藤まゆみ, 片岡純, 塩原由美子, 大内美穂子, 阿部恭子, 森本悦子, 高山京子, 佐藤禮子: 外来通院がん患者の主体性を発揮した生活を支援するために外来看護師が重要と考える看護実践. 第29回日

本がん看護学会学術集会講演集, 155, 2015.

3. 塩原由美子, 佐藤まゆみ, 阿部恭子: 若年女性生殖器がん患者とパートナーの手術前の困難と対処および望む支援. 第29回日本がん看護学会学術集会講演集, 193, 2015.
4. 荒堀有子*, 阿部恭子, 増島麻里子: 内分泌療法を開始した閉経前乳がん患者の治療経過に伴う対処. 第29回日本がん看護学会学術集会講演集, 223, 2015. (*2014年3月博士前期課程修了)

< 2015年4~12月 >

5. 阿部恭子, 金澤麻衣子**, 荒堀有子*, 佐藤まゆみ: 乳がん看護相談に携わる乳がん看護認定看護師に対する患者の期待. 日本乳がん看護研究会誌, 11巻, 19, 2015. (*2014年3月博士前期課程修了, **2013年3月博士前期課程修了)
6. 井関千裕: 若年乳がん患者へのかかわり. 日本乳がん看護研究会誌, 11巻, 22, 2015.
7. 金澤麻衣子**, 増島麻里子, 阿部恭子, 山内英子: 一次二期乳房再建術を受けた患者の術式選択の背景. 第23回日本乳癌学会総会プログラム抄録集, 478, 2015. (**2013年3月博士前期課程修了)
8. 島田菜穂子, 福田護, 阿部恭子, 小泉美都枝, 鈴木久美, 高木富美子, 土井卓子: 受診率向上の工夫 ピンクリボンアドバイザー 乳がんにやさしい社会に向けて 今後の展望. 日本乳癌検診学会誌, 24(3), 481, 2015.
9. 川端良平, 井関千裕, 吉川正人, 木村豊, 古賀睦人, 村上昌裕, 人羅俊貴, 廣田昌紀, 池永雅一, 清水潤三, 長谷川順一: 固形物摂取困難な終末期癌患者における摂食回復支援食「あいと®」の有用性について. 第37回日本癌局所療法研究会プログラム抄録集, 91, 2015

【単行書】

< 2015年1~3月 >

10. 阿部恭子: 第IV章慢性疾患の主な治療法と治療を受ける患者の看護 9. 内分泌療法を受ける患者の援助. 鈴木久美他編集, 看護学テキスト NiCE 成人看護学 慢性期看護 改定第2版, 182-188, 南江堂, 2015.
11. 村岡香織, 阿部恭子: 第4章. 乳がん・婦人科がん. 日本がんリハビリテーション研究会編, がんのリハビリテーションベストプラクティス, 91-116, 金原出版株式会社, 2015.

< 2015年4~12月 >

12. 井関千裕: Chapter1 がん治療と放射線 11他の治療法との組み合わせと目的. 池田恢 (監), イラストでよくわかる放射線治療・放射線化学療法とサポータティブケア, じほう, 24-25, 2015.
13. 井関千裕: Chapter2 副作用と対策 12副作用の起こる時期(急性期, 遅発期)と症状. 池田恢 (監), イラストでよくわかる放射線治療・放射線化学療法とサポータティブケア, じほう, 26-27, 2015.
14. 井関千裕: Chapter2 副作用と対策 16放射線皮膚炎. 池田恢 (監), イラストでよくわかる放射線治療・放射線化学療法とサポータティブケア, じほう, 36-37, 2015.
15. 井関千裕: Chapter3 上手につきあうために 30就労支援. 池田恢 (監), イラストでよくわかる放射線治療・放射線化学療法とサポータティブケア, じほう, 64-65, 2015.
16. 井関千裕: Chapter3 上手につきあうために 31放射線治療とセクシャリティの問題. 池田恢 (監), イラストでよくわかる放射線治療・放射線化学療法とサポータティブケア, じほう, 66-67, 2015.

【総説・短報・実践報告・資料・その他】

< 2015年4~12月 >

17. 阿部恭子, 井関千裕: がんサバイバーへの看護(Vol. 8) 集学的治療とサバイバー支援 内分泌療法. ナース専科, 35(11), 78-82, 2015.
18. 阿部恭子: 乳がん診療におけるコーディネーターの重要性. CLINICIAN, 643, 73-77, 2015.
19. 川端良平, 井関千裕, 木村豊, 吉川正人, 亀田千津, 松村多恵, ウォン政代, 古賀睦人, 村上昌裕, 廣田昌紀, 能浦真吾, 池永雅一, 清水潤三, 長谷川順一: 固形物摂取困難な終末期癌患者における摂食回復支援食「あいと®」の有用性について. 癌と化学療法, 42(12), 1564-1566, 2015.

【研究状況】

認定看護師教育課程（乳がん看護）では、乳がん看護および乳がん看護認定看護師教育に関する教育実践および研究を行っている。乳がん看護認定看護師の活動に関するもの（5）、乳がん看護の実践に関するもの（4, 6, 7）、乳がん検診に関するもの（8）、乳がん医療における多職種連携（18）などに取り組んでいる。また、薬物療法を受けるがん患者への支援（9, 10, 17, 19）、放射線療法を受けるがん患者への支援（12 - 16）、がん患者への外来看護実践（2）、や、がんリハビリテーション（11）などにも取り組んでいる。